



利用論

澁谷啓蔵譯

下

和装本

口仁

618

2



仁口門  
號 618  
卷 2

東京  
學校  
圖書

彌爾 利用論卷之下  
氏著 利用論卷之下  
此種證法  
來山  
所  
昔ハ

第四章  
利用理ヲ領悟セラルヘ  
徵證ヲ論ス  
其

終極ノ目的ノ疑問ハ  
徵證ノ語ノ常用意義  
根據リテ

之ヲ推ス可ラサル  
前既ニ之ヲ論シタリ  
第一章ヲ  
參觀スヘシ

總テ推論ノ徵證ヲ爲スニ  
適セサル者ハ  
知識ト舉

措トテ別タス  
一切ノ原理ニ於テ  
等シク其常ナリト  
ス  
然ルニ  
精知識ハ  
情事ニ屬スルヲ以テ  
猶情事ヲ判決  
スルノ靈能  
即チ外官ト内心ト  
良知トニ  
控告シテ  
裁

利用論

彌爾 利用論卷之下  
氏著

澀谷啓藏譯述

ヲ求ムヘキ者ナレバ、獨リ實施ノ目的ヲ論スルニ至  
 リテハ、識ラス此等ノ靈能ニ控告スヘキ者ナルヤ、將  
 タ如何ナル他ノ靈能ニ因リテ、其裁斷ヲ得ヘキ者ナ  
 ルヤ、  
 目的ノ疑問トハ、他ノ辭ヲ以テ之ヲ言ヘハ、則チ何物  
 ヲ以テ宜ク願欲スヘキ者トスルヤトノ疑問ナリ、今  
 利用ハ、教道タル幸福ヲ以テ宜ク願フヘキ者トシ、其  
 目的トシテ願フヘキ者モ、亦唯此一事ニ止リ、自餘ハ  
 諸事ハ、特ニ此目的ヲ達スルハ、方術トシテ願フヘキ  
 ニ、過キスト、而シテ人ヲシテ能ク此要旨ヲ信セシ  
 ノントスルニ於テ、此教道ニ求ムル所ノ者ハ何物ナ

ルヤ、此教道ノ如何ナル情形ヲ爲スヲ冀フヘキヤ、  
 盖形體ノ見ルヘキヲ知ラシムルノ徵證ハ、人實ニ之  
 ヲ視ルト謂フニ過キス、聲音ノ聞クヘキノ徵證ハ、人  
 實ニ之ヲ聽クト謂フニ過キス、其他吾儕經驗ノ諸因  
 一、至リテモ、皆此ノ如クナラサルナシ、故ニ余以為ラ  
 ク、或物ノ願欲スヘキ所以ヲ知ルノ徵證ハ、亦人實ニ  
 之ヲ願欲スト謂フニ過キサル、其理恰モ相同シト  
 嚮ニ若シ利用教道ノ自ラ稱說セシ所ノ目的ヲシテ、  
 理論ト實際トニ於テ、其宜ク目的トスヘキヲ認識セ  
 ラレサラシメハ、固ヨリ之ヲ人ニ證示スルヲ能ハサ  
 ルヘク、且各人ノ其力ヲ極メテ、自己ノ幸福ヲ願ヘル

コヲ捨ツルトキハ、亦何ヲ以テ公衆ノ幸福ノ願フヘ  
 キヲ知ルコトヲ得ンヤ、然ルニ此事タル幸ニ實情ニ係  
 ルヲ以テ、吾儕ハ帝ニ幸福ハ即チ善ナリトノ説ヲ可  
 トスヘキノ徵證ヲ得ルノミナラス、併セテ宜ク此説  
 ヲ要スヘキノ徵證ヲ得、即チ各人ノ幸福ハ、各個ノ爲  
 ニ善ナル可ケレハ、公衆ノ幸福ハ、自ラ衆人ノ總數ノ  
 爲ニ善ナル可シト謂フヲ得ルニ至リ、是ニ於テ所謂  
 幸福ナル者ハ、其義轉シテ舉措ノ目的ヲ指シ、又道德  
 ノ鑒法ヲ指スノ稱ト爲ルナリ、然リト雖モ、幸福ノ道德鑒法タルコトヲ證スルハ、特ニ  
 此一事ニ據ルヘキノ非ス、之ヲ爲スニハ、宜ク帝ニ人

民ハ幸福ヲ願フルコトヲ示ス、亦其決シテ自餘ノ  
 物ヲ願フサルコトヲモ示ス、夫キヲ要セリ、抑今日ノ人  
 民ヲ觀ルニ、其世俗ハ稱呼ニ於テ判然幸福ニ別チ死  
 ル諸物ヲ願フルニ甚ク明シニテ、例之德、行ノ事、罪  
 惡ヲ免ル、ハ、事ヲ願フテ、曾テ快樂ノ事、痛苦ヲ免ル  
 ハ、事ヲ願フニ異ナラサル者アリ、而シテ德行ノ願  
 欲タル、本幸福ヲ願欲ノ如キ普及ノ物ニ非サレバ、亦  
 同シク正確ノ物タルヲ失ハス、是ヲ以テ利用定法ヲ  
 抗敵者ハ、或ハ幸福ニ外、別ニ他ノ人類行爲ノ目的ヲ  
 以テ夫ヲ幸福トス者ハ、是非ヲ決スルノ定法ニ非サ  
 レバ、斷ズ夫ノ理アリト爲セリ、

然レ此論者試、思へ、利用ノ教道ハ、曾テ人民ノ徳行ヲ願フヲ以テ不可ナリトシ、或ハ徳行ハ宜ク願フヘキ物、非ストハ説ヲ持セシ、ア非ヤ、是レ決シテ其事ヲキヲ保ツヘク、其持スル所ヲ見ル、却テ徳行ハ宜ク願フヘキ者ナリト爲ス、ミナラス、亦宜ク私心ヲ絶チテ之ヲ願フヘシト爲ス、至レリ、蓋利用説者ハ、徳行ノ徳行タルヲ得ル所以、原状ニ關シ、自ラ定見アリテ、総テ行爲ト性情トノ徳善ト稱セラレ、ハ、唯其徳行外ノ目的即チ幸福ヲ增高スルノ故ニ因レルヲ信シ、是レ利用説者ノ常トスル所ナリ而シテ、彼等ハ固ヨリ此事ヲ確保シ、徳善ハ何物タル、亦此

般ラ思量ニ從テ之ヲ決セリト雖モ、猶徳行ヲ以テ終極目的ヲ達スヘキ諸方術ノ端首ニ列スルノミナラズ、並ニ各人徳行外、又或ル目的アルヲ知ラズシテ、直ニ徳行ヲ認メテ善ト爲ス、勢ハ人心上已ニ得サルノ實ナルヲ許シ、且各人ノ徳行ヲ愛ス、然レ此ノ如キ、甚シキ徳行ナル者ハ、之ヨリシ、幸甚又幸甚、願フヘキ緊要物件アリテ、畢竟之カ爲メ、徳行ヲ稱セラルヘキナリ、然ルニ今縦令此物件ヲ集セサルモ、自ラ徳行ヲ以テ願フヘキ物ト爲ス、其謂フヘキ、非サレバ、其心志モ正當ナリ、非サレバ、利用説ハ協フヘキ情形ニアラス、公衆ノ幸福ヲ助クヘキ情形

アラサルハキノ説ヲ唱フルコトアリ、顧フニ右ノ説タルヤ、亦毫モ幸福ノ理ニ乖離スル者ニ非ス、其故ハ凡ソ幸福ノ諸成分ハ、各種多般ニシテ、其物一々自ラ願フヘキヲ質ヲ具シ、必シモ盡ク之ヲ共計スルヲ待テ後ニ然ルニ非サルニ由リ、而シテ利用ノ道理ハ、曾テ一種快樂ノ事、或ハ痛苦ヲ免ルノ事、例之音樂ト健康トノ如キ者ハ、他ノ幸福ト名ツテテ、總合ノ一物ニ至ルノ方術ナルヲ以テ、其願ハル、所以モ、亦唯之ニ因レリト謂ヒシコトナク、是レ其物ハ固ヨリ自ラ願フヘキノ質ヲ具シテ、人々願フ所ト爲レル者ニシテ、即チ之ヲ以テ方術ト爲スノ外、又以テ目的トシ

分ト爲スヘキナリ、故ニ夫ノ德行ナル者モ、利用ノ教道ニ從ヘハ、本來目的ノ一分ニ非スト雖モ、又變シテ其一分ト爲ルヘキノ質ヲ具シ、專心之ヲ愛スルノ人ニ在テハ、則チ實ニ此ノ如キノ事アリテ、其之ヲ願欲養成スルヤ、以テ幸福ノ方術ト爲スニ非スシテ、寧ロ幸福ノ一分ト爲セリト謂フヘキナリ、吾儕ハ、猶此理ヲ證明スルカタメ、更ニ左ノ數言ヲ記スヘシ、是レ德行ハ元來唯方術ト稱スヘク、若シ之ヲシテ他ノ或物ニ至ルノ方術ニ非サラシメハ、復漠然顧ミラレサルヘシト謂フニ在ラスシテ、却テ其之ヲ方術ニ用ヒテ求メシ所ノ或物トノ聯合ニ因リ、終ニ

自ラ變シテ願ハルヘキノ物ト爲リ、且非常ノ熱愛ヲ受クルニ至ルヘシト謂フニ在リ、譬ヘハ今吾儕ハ錢貨ノ愛ニ於テ、如何ナル事ヲ説クヘキヤ、元來錢貨ノ物タル、的皦タル小石ノ堆積ニ比スルニ、曾テ願欲スヘキノ多キヲ加ヘス、其價值ハ之ヲ以テ買フヘキ物ノ價值ニ存シ、即チ別ニ錢貨ニ非サル他物ノ願欲アリテ、錢貨ハ特ニ此願欲ヲ快足スルノ方術ニ過キサルノミ、然ルニ錢貨ノ愛ハ、嘗ニ人生至強誘原ノ一ナルノミナラス、多クハ單ニ此物ヲ願欲シ、之ヲ有スルノ願欲、數之ヲ用ユルノ願欲ヨリ強ク、而シテ縱令之ニ因テ得ラルヘキ他ノ目的ノ諸願欲ハ、衰退スルモ、

猶此物ノ願欲ハ、却テ増進スルヲ見ルヲアリ、勢此ニ至ルトキハ、是レ錢貨ノ願欲セラル、所以ハ、其目的ヲ達スヘキカ爲ニ非スシテ、直ニ之ヲ認テ目的ノ一分ト爲セルニ因レリト謂フヘク、即チ元幸福ニ至ルノ方術タリシ者、今ハ變シテ各人幸福ノ主要成分ト爲リタルナリ、抑久生絶大意向ノ之ニ類スル者、蓋亦鮮シトセス、例之勢力名譽ノ事ノ如キ、自ラ之ニ附着セル幾分ノ直接快樂アリテ、恰モ固有ノ狀ヲ備ヘタルヲ、曾テ錢貨ノ能ク及フ所ニ非スト雖モ、元來勢力名譽ノ強ク人心ヲ牽制スル者ハ、特ニ其能ク他ノ願欲ニ達スヘキ無限ノ援助ヲ爲スニ因リ、而シテ此物

ト他ノ一切ノ願欲スヘキ諸物トノ間ニ生シタル密着ノ聯合ハ、則チ或人ヲシテ直ニ此物ヲ願欲スルノ強烈ナルヲ、他ノ一切ノ願欲ニ超ユルニ至ラシムル所以ナリ、故ニ此等ノ情況ニ於テハ、所謂方術ナル者ハ、變シテ目的ノ一分ト爲リ、猶其前ニ自ラ方術ト爲リテ求メシ所ノ或物ヨリハ、更ニ重要ナル目的ノ一分ト爲ルヲ得ヘク、即チ元幸福ニ達スルノ具タルカ爲ニ願ハレシ者、今ハ自ラ願ハルノ物ト爲リ、既ニ自ラ願ハルノ物ト爲レハ、則チ之ヲ幸福ノ一分トシテ願ハレタル者ト謂フモ不可ナキナリ、苟モ此ノ如クナレハ、凡ソ人此物ヲ得ルヲ以テ幸福ト爲シ、得

サルヲ以テ不幸ト爲スニ至リ、此物ノ願欲ト幸福ノ願欲トノ相異ナラサルハ、恰モ音樂健康ト幸福トノ相異ナラサルカ如クナルヘシ、蓋幸福トハ無形ノ思想ヲ謂フニ非スシテ、總合ノ全體ヲ指ス者ナレハ、此等ノ諸物ハ、固ヨリ皆其中ニ包含セラレ、幸福ノ願欲ヲ結成セル所以ノ原質ノ一ニ居ル者ニシテ、利用ノ教道ト雖モ、亦其然ルヲ許允セシナリ、今此ニ物アリテ、其本來ハ漠然願ミラレサルモ、亦以テ吾儕日常願欲ノ快足ヲ助ケ、或ハ之ト相聯合スヘキ者ナリトセシニ、凡ソ人能ク此物ヲ養成シ、之ヲシテ其恒久廣普強烈ナルヲ、遙ニ日常快樂ニ優ルノ快樂ト爲ラシム



ヘキ天性ノ稟賦ナキトキハ、是レ其生タルヤ、實ニ幸福ノ諸源ヲ具備セサル薄陋ノ物ニ過キサルノミ、所謂德行ナル者ハ、利用説者ノ料曉ニ隨ハハ、亦此類ノ福祉ニシテ、其快樂ヲ進助シ、痛苦ヲ防止スルノ効ヲ除テハ、本來ノ願欲意思アラサルナリ、然レ在上ニ謂フカ如ク、其一タヒ本來ノ願欲ト聯合セシ後ハ、終ニ自ラ福祉ト認メラレ、且他ノ諸福ノ如ク、強烈ノ愛ヲ以テ願欲セララル、ニ至ルヘク、而シテ德行ヲ愛スル者ト、錢貨及ヒ勢力名譽ヲ愛スル者トノ差異ハ、則チ一人ヲシテ本屬社會ノ諸人ニ福祥ヲ加ヘシムルコト、曾テ此專心愛徳ノ修養ニ勝ル者アラサルト、又

一ハ之ヲシテ諸人ノ憂害ヲ爲サシムルトニ在リ、是故ニ利用定法ノ、錢貨勢力名譽ノ諸願欲ヲ容忍應許スルハ、必之カ節限ヲ定メ、苟モ之ヲ越ユルトキハ、公衆ノ幸福ヲ増益スルヨリハ、却テ之ヲ妨害スヘキヲ以テ、敢テ此節限ノ上ニ出テシメスト、雖モ愛徳ノ修養ニ至リテハ、則チ視テ以テ公衆幸福ニ大益アルコト、遙ニ一切ノ諸物ニ卓出セル者トシ、力ヲ極テ、之ヲ推獎要求スルナリ、  
幸福ノ外、一物ノ真ニ願ハル可キ者アラサル所以ノ理ハ、前述ノ思量ヲ以テ之ヲ決スヘシ、故ニ今若シ一物アリテ、其願ハル、所以ハ、之ヲ以テ他ノ目的ニ達

シ、結局幸福ニ至ルノ方術ト爲スニ因ルニ非サラシ  
 ムルトモ、是レ自ラ幸福ノ一分トシテ願ハレタル者  
 ニシテ、苟モ此ノ如キニ至ラサレハ、決シテ自ラ願ハ  
 ル、コナカルヘキナリ、故ニ夫ノ唯德行ヲ願欲スル  
 ノ人ニ至リテモ、其之ヲ願フ所以ノ者ハ、亦唯之ヲ得  
 ルヲ以テ快樂ト爲スニ因リ、或ハ之ヲ得サルヲ以テ  
 痛苦ト爲スニ因リ、或ハ此兩情ノ合併シタルニ因レ  
 リ、蓋快樂ト痛苦トハ、本相離レテ存スルコト稀ニシテ、  
 多クハ相伴ツテ起ル者ナレハ、何人ヲ論セス、總テ其  
 既ニ達シタル德行ノ級位ニ因リテ快樂ヲ覺ユルト  
 キハ、必其未タ之ニ達セサルニ因リテ痛苦ヲ覺ユヘ

シ、然ルニ若シ之ヲ得ルト之ヲ得サルトノ兩情中、甲  
 ヲシテ此人ハ快樂ヲ與ヘサラシメ、乙ヲシテ痛苦ヲ  
 與ヘサラシムルトキハ、此人ハ竟ニ德行ヲ愛好願欲  
 セサルハ、又縱令之ヲ願欲スルコトアリハ、是レ特ニ  
 之ニ因リテ自己或ハ其眷顧セル諸人ノ身ニ生出ス  
 ル所ノ他利益ヲ謀ルニ過キサルヘキナリ、  
 吾儕ハ、此其至リ、利用ハ理ハ如何ナル徵證ニ因テ、領  
 悟セラレハ、キヤノ疑問ニ答辭ヲ置クヲ得ハシ、蓋今  
 余ノ論述セシ所ノ意見ヲシテ、果シテ人心論ノ真理  
 ニ出テシメ、即チ人類天性ノ本質ヲシテ、凡ソ物幸福  
 ノ一分ナルカ、或ハ幸福ヲ達スルノ方術ナルニ非サ

レハ、一切之ヲ願欲セサル者ナラシメハ、吾儕ハ此兩者ハ實ニ願欲ス可キノ物ナリト謂フコトニ於テ、更ニ他ノ徵證ヲ有セス、又之ヲ要セサルナリ、苟モ此ノ如クナレハ、幸福ナル者ハ、是レ人類行爲ノ單獨ナル目的ニシテ、其增高ノ多少ハ、則チ因テ以テ一切舉措ノ是非ヲ判定スヘキノ試法ナリトシ、而シテ其一分ナル者ハ、固ヨリ其全體ニ包括セラレハキ理ナレハ、幸福ノ必道德ノ鑒則<sup>シテ</sup>タラサル可ラサルコト、亦推シテ知ルヘキナリ、  
今此事ノ真ニ然ルヤ、又人類ハ之ヲ得ルヲ以テ快樂ト爲シ、或ハ之ヲ得サルヲ以テ痛苦ト爲ス者ノ外、一

切何物ヲモ願欲セサルハキヤヲ斷決センカタツ、吾儕ハ亦他ノ類似ノ疑問ニ於ケルカ如ク、須ラク實證ニ屬スル情事ト經驗トノ議ニ涉ラサルヘカラス、顧フニ是レ唯自知自察ヲ行フト、他人ノ觀察ヲ假テ之ヲ助クルト、因テ判定セラレヘキ者ト爲シ、苟モ能ク此實證ノ諸源ニ據リテ、公平ニ商量スルトキハ、一物ヲ願欲スルト、之ヲ以テ快樂ト爲スト、又一物ヲ嫌忌スルト、之ヲ以テ痛苦ト爲ストハ、孰レモ一意像中ノ兩派ニ過キスシテ、到底別異スヘカラス、猶嚴密ノ語法ニ據レハ、畢竟同一ノ心情ヲ喚フニ、二様ノ異名ヲ以テスル者ト稱スヘキヲ曉ルヘシ、是ヲ以テ、今一

物ヲ以テ願欲スヘキ者ト爲スモ、其物ノ生スヘキ他  
ノ成果ヲ望ム、因ルニ非サル心之ヲ以テ快樂ト爲  
スモ、同シク是レ一事ニシテ、凡ソ物之ヲ以テ快樂ト  
爲スニ非スシテ、之ヲ願欲スルハ、理勢人心ノ能ハサ  
ル所トス、  
右ノ理ハ甚々著明ニシテ、決シテ異議ヲ容ル、能ハ  
サル者ナリ、而シテ偶駁説ヲ爲ス者アリト雖モ、之ヲ  
要スルニ、願欲ナル者ハ、快樂ノ事、痛苦ヲ免ル、ノ事  
ヲ除キ、其他或物ニ歸向スルヲ得ヘシト謂フニ非ス  
シテ、唯願欲ノ外、別ニ好尚ナル者アリテ存スト謂フ  
ニ過キス、即チ其説ニ以爲ラク、凡ソ德行堅立ノ人、或

ハ其志向ノ確定セル人ハ、此志向ノ觀想踐履ニ因リ  
テ生スヘキ快樂ヲ期望スルノ慮ヲクシテ、能ク之ヲ  
舉行シ、加之縱令此等ノ快樂ハ、心性ノ變更ト、願欲ノ  
衰退ト、爲ニ多ク減却シ、又志向ヲ討求ヘ、因リテ受  
クヘキ痛苦ノ量、却テ之ヨリ多キトキト雖モ、猶前行  
ヲ固執スヘシト、此ノ如キノ事ハ、固ヨリ余ノ極テ許  
ス所ニシテ、前ニ亦説者ノ如ク、大聲疾呼ヲ以テ之ヲ  
論述シタリ、蓋自動質ニ屬スルノ好尚ハ、被動質ニ屬  
スルノ願欲ニ比スルモ、全ク別物ト爲シ、其本來ヲ論  
スレハ、亦願欲ヨリ生シタル萌孽ナリト雖モ、一時自  
ラ根柢ヲ生シ、本宗ノ外ニ超脱スル者ト謂フヘク、猶

習慣ノ志向ニ於テハ、凡ソ物元之ヲ願フヲ以テ之ヲ好ニタル者、今ハ轉シテ唯之ヲ好ムヲ以テ之ヲ願フニ至ルヲ、往々之アルナリ、然レテ、此事ハ畢竟世間常有ノ證例、即チ習慣ノ勢力ナル者ニシテ、特ニ德善ノ行為ニ限ルニ非ス、總テ諸人ノ本來或類ノ意思ニ因リテ行フハキ諸事ヲ觀ルニ、亦習慣ニ因リテ之ヲ為ス者少シトセス、或ハ自ラ其何タルヲ知ラスシテ之ヲ行ヒ、行フテ後初テ之ヲ知ル者アリ、或ハ自知ノ識見ヲ以テ之ヲ行フト雖モ、其識見タルヤ、徒ニ習慣ニ出ツルヲ以テ、動モスレハ慎密ノ選擇ニ及シテ舉行スルヲ免レサルヲ、猶夫ノ姦惡陰險ノ陋習ヲ有スル

入ニ於ル如キ者アリ、若シ夫レ習慣ノ効、一個人ノ好尚ヲシテ、曩時旺盛ノ意思ニ抵觸セヌシテ、却テ之ヲ踐履セシムルニ至ルカ如キハ、是レ其最上ノ居ル者ニシテ、德行堅立ノ人、及ヒ慎密穩當ヲ以テ、一定ノ目的ヲ討求スルノ人ハ、則チ此例ナリトス、此ノ如ク解シ來レハ、好尚ト願欲トノ區別ハ、洵正正確重要ナル入心上ノ實理ト爲シ、而シテ此實理ハ因テ成ル所以ヲ推スニ、好尚ナル者ハ、其他ノ人類成立ノ諸因ノ如ク、全ク習慣ニ屬スハキト、吾儕ノ習慣ニ因リテ其曾テ願ハサル所ノ人物ヲ好シ、或ハ唯之ヲ好ムヲ以テ之ヲ願フニ至ルトニ外ナラス、然レニ好尚ハ其始ノ

本願欲ヨリ生セシト謂フ、曾テ之カ爲ニ其眞實ヲ  
損スルニ非ス、是レ此語好尚ノ語ノ亦自ラ痛苦ヲ驅  
除シ快樂ヲ牽引スルノ意義ヲ含メルヲ見テ之ヲ知  
ルハ、今試ニ左ノ事ヲ思量セシ、此三人アリ、正理  
ヲ行フハキ堅立ノ好尚ヲ有スルモ、徳行ノ好尚ハ、猶  
薄弱ナリトセハ、其能ク此人ヲ以テ外誘ヲ爲シ惑ハ  
サレズ、一意自ラ信スルニ至ラシムル所以ハ、果  
シテ何々方術ヲ以テ之ヲ激勵セシ、因ルヤ、徳行ノ  
好尚ハ未タ充足ノ勢力ヲ得サル者、如何シテ能ク之  
ヲ修養省悟スルニ至ルヘキヤ、願フニ是レ唯人ヲシ  
テ徳行ヲ願欲セシメ、即チ之ヲ得ルヲ以テ快樂ト爲

シ、之ヲ得サルヲ以テ痛苦ト爲サシムルニ在ルノミ、  
故ニ夫ノ能ク快樂痛苦ノ慮ナクシテ行フヘキ、徳行  
堅立ノ好尚ヲ生スル所以ノ道ハ、則チ其始メ正理ヲ  
行フトト快樂トヲ聯合シ、非理ヲ行フトト痛苦トヲ  
聯合シ、以テ人ヲシテ其經驗中快樂ハ自ラ甲ニ存シ、  
痛苦ハ自ラ乙ニ存スルヲ推測默識セシムルニ由  
テ起リシナリ、抑好尚ハ元願欲ノ兒子ニシテ、特ニ一  
タヒ習慣ノ統轄ニ入ルトキハ、則チ其本親ノ統轄ヲ  
離ルハ者ト爲シ、而シテ習慣ノ結果ナル者ハ、必シモ  
其本眞ノ善ナルヲ保ツヘカラス、又行爲ノ恒久不  
變ヲ欲シテ、未タ習慣ノ助ヲ得サルニ當リテハ、須ラ

ク夫ノ德行進入ノ路ニシテ、所謂快樂ト痛苦トヲ以テ事功ニ聯合スルノ感化ナル者ニ因ラサルヘカラストセハ、德行ノ志向ノ能ク快樂痛苦ヲ離レテ自立センコトヲ庶幾スルモ、甚タ理ナシト謂フヘシ、故ニ習慣ノ感覺ト舉措トニ於ルハ、特ニ之ニ賦スルニ確定ノ性ヲ以テスルニ過キス、而シテ正理ヲ行フ好尚ハ、宜ク此習慣ノ自立ヲ以テ修養セラレヘシトスル所以ノ者ニ至リテモ、亦唯其他人ニ在ルト己ニ在ルトヲ論セス、総テ各自ノ感覺舉措ニ倚信スルノ重要ナルヲ謂フニ過キストス、然ラハ則チ此ノ如キ好尚ノ形状ハ、是レ唯善ニ達スルノ方術ト稱スヘク、決シテ

之ヲ以テ本真ノ善ト稱スルヲ得サル者ニシテ、其事タルヤ、夫ノ凡ソ物自ラ快樂スヘキノ質ヲ具シ、或ハ快樂ニ達シ、痛苦ヲ避クルノ方術タルノ外ハ、一切人類ノ善ト稱スヘキ者ナシトセル教道ニ比シ、曾テ相抵觸スルコトアラサルヘキナリ、宜ク其類ニ異今若シ此教道ヲ以テ、真理ニ出ツル者トセハ、利用ノ理ハ、以テ證スルヲ得ヘシ、然レ其果ニテ真理ニ出ツル財、否サルトニ至リテハ、猶聰識アル讀者ノ思量ニ付セサル可キナルナリ、思ハク其類ニ異

古來道理想察、時世ニ在テ、利用即チ幸福ハ是非鑿  
別ノ法ナリトノ教道ヲ領受スルニ當リ、其最大妨礙  
ヲ爲セシ者ハ、毎ニ公義ノ思想ヨリ出ツ、蓋此語ハ稟  
性ニ類スル者アルヲ以テ、其諸人強盛ノ意見ト表面  
以心會トテ喚起スルノ速ナル識者ノ大半、之ヲ以  
テ事物固着ノ品質ナリトシ、所謂公義ナル者ハ、天然  
ニ存スル獨全ノ一物ニシテ、便宜ノ各法ト其類ヲ異  
ニシ、縱令事實上久シク之ニ分離スルキニ非サルモ、  
常ニ諸人ノ承認セルカ如ク其思想ニ至リテハ、全ク  
之ニ反セリト爲スニ至ルリ、  
公義ノ意見ハ、亦猶他ノ道德上ノ意見ヲコトク、其起

原ノ論ト約制力ノ論トノ間、必シモ須要ノ連係アル  
ニ非ス、又一類ノ感覺、上天ニ因リテ吾儕ニ賦與セラ  
ル、者ハ、必シモ其擴張ヲ以テ盡ク正ニ合スト爲ス  
ヘカラス、故ニ公義ノ感覺ハ、特殊ノ稟性ト稱スヘキ  
モ、亦猶他ノ諸稟性ノコトク、更ニ高等ナル道理ニ因  
テ管制啓發セラルヘキ者ト爲ン、而シテ吾儕ハ縱令  
能ク己ヲ導キ、一種ノ事ヲ判定スルヲ得セシムヘキ、  
心智ノ稟性ヲ有スルコト、其能ク己ヲ助ケ、一種ノ事ヲ  
行爲スルヲ得セシムヘキ、形氣ノ稟性ヲ有スルカ如  
クナルモ、心智ノ稟性ハ、必シモ形氣ノ稟性ヨリハ錯  
誤少シト謂フヘキニ非スシテ、其此ニ因テ徃々不是



ノ判定ヲ施スコアルハ、亦猶彼ニ因テ不是ノ行爲ヲ  
 施スコアルカトキナリ、蓋諸人公義ノ天然感覺ヲ  
 有スルヲ信スルト、此感覺ヲ許認シテ、舉措ノ終極鑒  
 法ト爲ストハ、自ラ別事ニ屬スト雖モ、此二說ハ實地  
 上甚タ緊接セル者ト爲シ、又人類ハ固ヨリ省察ノ感  
 覺ハ、必<sup>ラ</sup>遵<sup>ル</sup>依<sup>ル</sup>ノ實因ノ啓迪<sup>ヲ</sup>謂<sup>フ</sup>命<sup>ナル</sup>ハキヲ信ス  
 ル<sup>ル</sup>其常ナリトス、是ヲ以テ今吾儕ノ主意ハ、公義ノ  
 感覺ナル者ノ由テ來ル所ノ實因ハ、斯ノ如ク特殊ノ  
 啓迪ヲ要スル者ナルヤ、所謂行爲ノ義不義ハ、本來特  
 殊ノ一物ニシテ、行爲ノ諸品質、若クハ其混和ノ特殊  
 ノ形狀ヲ爲セル者ヲ謂フニ非サルヘキヤヲ決スル

ニ在リテ、此講究ヲ爲サント欲スルニハ、先ツ義不義  
 ノ感覺ハ、果シテ色味ノ觸覺ノ如ク、獨成ノ本質ニ出  
 ツルカ、將タ他物ノ混和ヨリ生シタル變化ニ出ツル  
 カト思量スル<sup>ル</sup>、實際ニ於テ緊要トスル所ナリ、而シ  
 テ此事ヲ查明スルノ更ニ少クヘカラサル所以ノ者  
 ハ、則チ凡ソ人民大率公義ノ諸命誠ハ、亦遵依ノ實因  
 ニ於テ、公衆便宜ノ區域ノ一分ト相合スル者ナル<sup>ル</sup>  
 ヲ許<sup>ス</sup>、好<sup>ム</sup>ヲト雖モ、特ニ公義ノ省察ノ感覺ニ至  
 リテハ、自ラ單純便宜ニ附帶セル所ノ諸物ニ別異シ、  
 苟モ此類ノ便宜ノ太甚ナルニ非サルヨリハ、勢威ノ  
 強盛ナル負<sup>フ</sup>之ニ勝ル者アルヲ以テ、世或ハ公義ノ

元唯公衆利用ノ變形一例タルヲ悟ラスシテ却テ其  
 勝絶ナル約制力ハ全ク別種ノ起原ヲ要スト爲ス者  
 アルニ因レリ、然レ直ニ爾等ノ言ハ精妙ニ似ル  
 此疑題ヲ明解セント欲セハ試ニ義不義ノ本分ノ性  
 ハ如何ナルヤ、不義ト稱スヘキ各様ノ舉措ニ屬セル  
 如何ナル品質アリテ公義ニ屬スルハ品質ハ其反面  
 ニ因テ知ルヲ得ヘシ以テ他ノ單ニ不是ト爲ス所ノ  
 各様ノ舉措ニ別ツヘキヤ、將不義トハ則チ亦不是ヲ  
 指スノ名稱ニハ非サルハキヤヲ考核スルヲ急務ナ  
 リトス、故ニ今若シ諸人ノ相因襲シテ義或不義ナ  
 リト表別スル所ノ事物ニ於テ通有ノ屬質若クハ其

混和ノ常ニ存セル者アレハ吾儕ハ所謂一種通有ノ  
 屬質若クハ其混和ハ是レ人情成立ノ常法ニ因リ之  
 ニ就テ此特殊強烈ノ意見ヲ收拾スヘキ者ナルカ、將  
 タ此意見ハ解説スルニ由ナクシテ唯上天ノ特命ナ  
 リト看做スヘキ者ナルカヲ判決スルヲ得シ然ル  
 ニ若シ之ヲシテ前ニ謂フ所ハ者ニ出テシメハ吾儕  
 ハ固ヨリ此疑題ヲ釋スルニ當リ併セテ他ノ大疑  
 問是レ第一章ニ所謂一大疑問ニシテ最大善ヲ釋ス  
 ルヲ得ス、ク假令之ヲシテ後ニ謂フ所ハ者ニ出テシ  
 ムルモ亦之ヲ審究スルハ別法ヲ求ムルヲ得ヘキナ  
 リ

○凡ノ各種事物通有ノ屬質ヲ尋覓セントスル者ハ、必先ツ其總體ニ就テ之ヲ推測スルヲ要ス、故ニ今吾儕ヲシテ、盡ク夫ノ世間公行ノ說ニ、公義或ハ不義トシテ類別セル所ノ行為ノ方法、人事ノ綱紀ヲ想起スルヲ得セシメヨ、蓋此名稱ニ連帶セル意見ヲ興發スヘキ諸件ハ、其品類極テ繁多ナルヲ以テ、余ハ復其詳細ノ倫次ヲ顧ミルニ暇ナク、將ニ速ニ之ヲ閱覽ニ付セシトス

第一、各人ノ自由、財産、及ヒ其他律法上之ニ屬スヘキ諸物ヲ剥奪スルハ、多ク不義ノ事ト稱セラレ、是レ義不義ト云ヘル名稱ノ、的實ナル意義ヲ以テ用ヒラレ

タル一例ニシテ、即チ或人ノ律法上ノ權利ヲ敬重スルヲ以テ義ト爲シ、之ヲ犯毀スルヲ以テ不義ト爲ス者ナリ、然レモ此判定ハ亦義不義ノ意義ノ變換スルニ因リ、幾多ノ例外ノ事アルヲ免レズ、則チ剥奪ヲ受ケタル人、罪ニ因テ自ラ此剥奪セラレハキ權利ヲ抵償(律法ノ語ニ因ル)セシトキニ於ルカ如キ是ナリ、此事ハ當ニ次節ニ詳論スヘシ、

第二、然ルニ此人ノ剥奪セラレタル律法上ノ權利ナル者ハ、元應ニ此人ニ屬スヘカラスナル權利ニシテ、即チ他語ヲ以テ之ヲ言ヘハ、此權利ヲ以テ此人ニ與フルノ律法ハ、之ヲ弊法ト稱スヘキナリ、是レ凡ソ人

ノ權利ヲ有スヘクシテ、律法上ノ權利ヲ謂ナル、今此事ノ者ハ、元宜ク有スヘクシテ、物ニ非サルヲ謂ス。今此事ノ果シテ其當ヲ得タルト、假ニ當ヲ得タル者ト爲スト。ヲ論セス、吾儕ノ志向ニ於テハ、兩ナカラ之ヲ同視セシ、凡ソ律法ヲ干犯スルノ義不義ニ於テハ、諸說各異同アリ、或人ハ自ラ其說ヲ爲シ、謂ヘラク、凡ソ律法ナル者ハ、縱令弊惡ナリト雖モ、宜ク一個人ヲ得テ違背スヘキニ非ス、若シ之ニ對シテ抗拒ハ心ヲ抱クト、アハ、唯當ニ主任ハ官權ヲシテ、之ヲ更改セシムルヲ務ムヘキハ、ミト、顧フニ此說タルヤ、是レ人類中最モ稱道スヘキ仁人ヲ非斥スルノ說ニシテ、以テ夫ノ事物ノ形况ニ於テ、有害ノ法令ニ勝ツノ機會ヲ有セル

攻撃ニ遭フモ、能ク之ニ抗スルヲ得ヘキ者ナリ、便宜ノ根基、若クハ殊ニ律法遵從ノ意見ヲ確守スルハ、人類ノ共通利益ニ緊要ナルヘシトノ根基ニ據リテ見テ立ツル人ノ主張スル所ナリ、而シテ或人ハ全ク之ト相反スルヲ說ヲ持シ、凡ソ弊惡ナルヲシト判定セラル、タル律法ハ公然違背スルヲ得ベク、猶縱令其未タ不義ナルニ至ラスシテ、唯不便ナルニシト判定セラル、トキト雖モ、亦然リト謂ヒ、或人ハ不義ノ律法ニ違背スルヲ得ベキ、准許ノ限界ヲ定メント謂ヒ、又或人ハ凡ソ律法於元人類天然ノ自由ニ檢束ヲ加フル者ニシテ、此檢束ノ事タル、苟モ人類ノ福祉ヲ謀ル

カ爲ニ出ツルニ非サレハ、一切以テ不義ト爲スヘキ  
 ニ因リ、不便ナル律法ハ盡ク不義ナリト謂ヘリ、此等  
 各異ノ諸説ヲ夷考スルニ、其等シク應允スル所ノ者  
 ハ、則チ律法ハ或ハ不義ナル者アルヘキ、及ヒ律法  
 ハ公義ノ終極鑒法ニ非スシテ、特ニ公義ノ定案ニ據  
 リ、利益ヲ一人ニ與ヘ、禍害ヲ一人ニ加フル者ニ過キ  
 サルヘキコトナリ、然リト雖モ、律法ノ以テ不義ナルヘ  
 シト思量セラル、所以ノ者ハ、猶律法破壊ノ以テ不  
 義ト思量セラル、所以ニ於ルカコト久、即チ亦或人  
 ノ權利ヲ干犯スルニ起リ、但其權利タル、此時ニ於テ  
 ハ、復律法上ノ權利ニ非スシテ、更ニ別種ノ稱號ヲ受

テ、道德上ノ權利ト名ケラル、ノ異アルノミ、故ニ吾  
 儕ハ不義ノ第二情形ハ、道德上ノ權利ヲ有スル所ノ  
 諸物ヲ、他人ヨリ收取停奪スルニ因テ生ス、ト謂フヲ  
 得ルナリ、  
 第三、何人ヲ論セス、總テ其宜ク得ルキ所ノ物、福祉或  
 ハ禍害ヲ得ルハ義ニシテ、宜ク得ルヘカラサル所ノ福  
 祉或ハ禍害ヲ得ルハ不義ナリトス、顧テ此説ハ一  
 般ノ人心ニ於テ、公義思想ヲ會得スルノ最モ明晰牢  
 固ナル者ト謂フヘク、而シテ此説ハ又功過ノ意ヲ會  
 有セルヲ以テ、或ハ功過ナル者ハ、元何ヲ以テ成ルヤ  
 ノ疑問ヲ來スコトアリ、蓋通常ノ言ヲ以テ之ヲ説クト

キハ人若シ正理ヲ爲セハ宜ク福祉ヲ得ヘク若シ非  
 理ヲ爲セハ宜ク禍害ヲ得ヘクト謂フヘク其詳細ノ  
 意義ニ及フトキハ則チ人ハ己レ之ニ福祉ヲ與ヘク  
 ル所ノ諸人ヨリハ亦宜ク福祉ヲ得ヘク己レ之ニ禍  
 害ヲ加ヘタル所ノ諸人ヨリハ亦宜ク禍害ヲ得ヘシ  
 ト謂フヘキナリ若シ夫レ禍害ニ報ユルニ福祉ヲ以  
 テスルノ訓如キハ是レ公義ヲ履行スルノ情境ト  
 爲スヘキニ非スシテ特ニ他ノ思量ニ遵從シ復公義  
 ヲ要望スルノ顧ミサルノ情境ト爲スヘキノミ  
 第四或人ニ對シテ信ヲ失フハ判然不義ノ事ナリト  
 ス即チ明約暗約ヲ論セス總テ應諾ヲ破ルル及ヒ己

ノ舉措ヨリ出テ知認甘心シテ之ヲ起シタル他人ノ  
 希望ヲ空シクスルハ是レナリ此公義ノ職分契約ヲ  
 謂フハ亦上ニ論シタル他ノ公義ノ職分ノ如ク並  
 ニ未タ以テ獨全ノ物ト爲ス可ラス一方ニ於テ公義  
 ノ職分ノ更ニ之ヨリ重キ者アレハ之カ爲ニ彈壓セ  
 ラルヘキト例之契約關涉ノ一人ニ於テ若シ吾ハ之  
 ニ對スル義務ヲ免レ彼ハ自ラ希望スヘキ利益ヲ抵  
 償スルニ至ルノ不法ヲ行ヒシトキト如ク  
 第五偏私ノ公義ト並ニ行ハレサルハ普通ノ定論ニ  
 シテ即チ恩典特愛ノ其正當ヲ得サル者ヲ以テ之ヲ  
 一人ニ加フルルハ他人ヨリ過クルカ如キ實ニ之ニ屬

ス、然ルニ此恩典特愛ノ事タルヤ、毎時咎責ヲ受クル  
ト無キノミナラス、却テ其之ヲ受クルノ患ハ、其常ニ  
非スシテ、寧ロ其變ト稱スヘキニ因リ、所謂不偏ノ道  
ナル者ハ、亦獨立ノ義務ニ非スシテ、寧ロ他ノ義務ヲ  
助クルノ器具ト爲スヘキニ似タリ、故ニ今人已ノ親  
戚朋友ニ上等ノ官職ヲ與フルト、外人ニ與フルニ踰  
ユルトモ、曾テ別ニ他ノ義務ヲ害スルニ非サルノ時  
ニ當リ、此人猶且此ノ如クセサレハ、其誹議ヲ受クル  
ト、應ニ稱讚ヲ受クルヨリモ多カルヘク、又他人ヲ棄  
テ、朋友義故若クハ夥伴ノ一人ヲ撰取スルトモ、之  
ヲ以テ不義ト爲ス者ハ未タ曾テ之レ有ラサルナリ、

若シ夫レ事權利ニ關カル者ニ至リテハ、固ヨリ此不  
偏ノ道ニ遵ハサル可ラスト、雖モ是レ自ラ權利ヲ各  
人ニ與フルヲ以テ主トセル一層廣潤ナル職分中ニ  
包含セラレ、者ニシテ、例之法衙ノ不偏ナルヘキハ、  
争訟ノ事ヲ決スルニ當リ、他ノ思量ヲ顧ミスシテ、專  
ラ其權利ヲ有セル兩造ノ一方ニ與フヘキニ因レル  
カ如シ、此餘不偏ノ義、或ハ單ニ功過ニ因テ動カサル  
者ヲ指スト、審官、教師、父母等ノ本分ヲ以テ、功過ニ  
隨テ賞罰ヲ行フトキ、如キアリ、或ハ單ニ公共利  
益ノ思量ニ因テ動カサル、者ヲ指スト、政府ノ使用  
ノ爲ニ候補者ヲ選擇スルトキ、如キアリ、之ヲ要ス

ルニ、不偏ノ道タル、公義ノ一職分トシテ、之ヲ論スル  
 トキハ、是レ特ニ目下接近ノ事情ニ關スヘキ思量ニ  
 因テ動カサレ、苟モ此思量ノ命示スル所ノ外ハ、一切  
 他ノ舉措ヲ生スヘキ念慮ノ引誘ニ抗拒スル者ヲ指  
 スナリ、  
 不偏ノ思想ト殆ト相聯結セル者ハ、平等ノ思想ニシ  
 テ、此平等ナル者ハ、徃々公義ノ心得ト躬行トニ於テ、  
 並ニ其結成ノ一分ト爲リ、衆人ノ見ル所ニテハ、之ヲ  
 以テ其本體ヲ成ス者ト爲セリ、然ルニ之ニ關セル公  
 義ノ見解ノ人々相異ナルハ、他ノ情境ニ於ルヨリモ  
 甚シク、而シテ恰モ利用ノ見解ノ人々相異ナルニ同

シ、蓋何人ヲ論セス、便宜ノ事ハ、或ハ不平等ヲ要スル  
 コアリト思考スルトキノ外ハ、固ヨリ平等ハ公義ノ  
 命誠ナリトノ説ヲ持シ、又衆人ノ權利ニ平等ノ保護  
 ヲ與フルヲ以テ、公義ト爲スコトハ、實際此權利ニ最モ  
 暴戾ナル不平等ヲ加フル者ト雖モ、亦之ヲ主唱スル  
 所ニシテ、奴隸ヲ蓄フノ國ニ至リテモ、猶理論上ニ於  
 テハ、奴隸ノ權利ノ貴重ナルハ、主長ノ權利ノ貴重ナ  
 ルカ如キコト、同等ノ嚴正ヲ以テ、此奴隸ノ權利ヲ伸  
 張セサルノ法衙ハ、公義ヲ缺ク者トスヘキコトヲ許  
 允セサルニ非ス、但シ其伸張スヘキノ權利ヲ奴隸ニ  
 與フルコト極テ少キ所ノ律例ヲ視テ、未夕遽ニ以テ不



義ト爲サ、ル所以ノ者ハ、此律例、以テ不便ト爲ス  
 可ラサルニ因レリ、故ニ凡ソ利用ナル者ハ、須ラ品等  
 ノ區別ヲ要スヘシト思考スルノ人ハ、富有ト社會特  
 權トノ散布ノ平等ナラサルヲ以テ不義ト爲スヲナ  
 久、唯此不平等ヲ以テ直ニ不便ナリト思考スルノ人  
 ハ、則チ之ヲ以テ不義ト爲スヘク、例之苟モ政府ヲ以  
 テ有用ノ物ナリト思考スル人ノ如キ、元來政府ナル  
 者ハ、人民ニ許サ、ル所ノ權カヲ以テ特ニ官憲ニ與  
 フルカ如キ重大ナル不平等ニ因テ成レリト雖モ、亦  
 未タ曾テ之ヲ以テ不義ト爲ス者アラサルナリ、帝ニ  
 是ノミナラス、夫ノ貴賤同等ノ教道ヲ守レル者ニ就

テ論スルモ、其間公義ノ諸説、人々相異ナルハ、亦猶  
 便宜ノ諸説ノ人々相異ナルカコトク、即チ或ルコト  
 ニヨニスト社會ノ財產ハ、貴賤ヲ分タス、均シク社會  
 共通ノ勞カヨリ生スル所ノ製産ヲ分ツニ、嚴密ナル  
 平等ヲ以テセシテ、他ノ道理ニ因ルハ、不義ナリト  
 シ、或人ハ、需用亦最大ナル者ハ、其受クル所亦宜ク最  
 多ナルヘキヲ以テ義ト爲シ、又或人ハ、勞作スルヲ甚  
 シキ者、製産スルヲ多キ者、及ヒ其事業ノ社會ヲ益ス  
 ルヲ多キ者、皆製産ノ分受ニ於テ、宜ク大股分ヲ望  
 ムトシテ、以テ義ト爲シ、而シテ所謂公義ナル者ノ旨  
 意ハ、此等諸説ノ中、其孰レヲ主トスルニ論ナク、齊シ

ク之カ辭ヲ作ルヲ得ヘキナリ、  
 以上舉クル所ノ如ク、公義ノ名稱ニハ、各種不同ナル  
 用例アリト雖モ、未タ以テ含糊暗昧ノ語ト爲ス可ラ  
 ス、然ルニ其間ニ就キ、心性ノ鍊索ノ以テ諸説ヲ連結  
 シ、此名稱ニ附着セル道德上ノ意見ヲ繫住スヘキ者  
 ヲ捉拿スルハ、亦甚タ難事ニシテ、顧フニ此難阨ヲ解  
 クノ援助ハ、チモゴダ字論學ノ指示セル此語ノ沿革ヨリ生出  
 スヘキナリ、  
 諸國ノ方言ニ於テ、英語ノ「シヤ」ス。ト。義ノ公ニ相當セ  
 ル語ノ字論ハ、孰レモ人定ノ律法若クハ其初形所謂  
 權カアル習慣ニ連係スルノ起原ニ歸着セリ、即チ「シ  
アウツタチノコト

ヤ。ス。チ。ユ。ム。ハ。ジヤ。ス。ス。ユ。ム。共。羅。ヨリ。轉。シ。使。令。セ  
 エ。レ。シ。所。ノ。事。物。ト。謂。ハ。ル。義。ニ。シ。テ。シヤ。ス。ハ。共。ニ。其  
 原ヲ同クシ、チカ。ヨ。ン。ハ。チケ。共ニ希ヨリ出テ、其義ハ  
 希臘國ノ歴世ニ在テ、律法上ノ要訟ヲ指サセトモ、本  
 來此語ハ唯事ヲ爲スノ方法規矩ヲ謂ヒ、之ヨリ轉シ  
 テ、夙ニ「バトリアルク」老國審司、政治諸官憲ノ必行セル  
 制定ノ規矩ヲ指スニ至ル者ト爲シ、又「レ」ト。獨逸ハ、  
 英語ノ「ライト」及「ライテ」共ニ正理或ハ正直ノ義ノ由テ出  
 ツル所ニシテ、律法ノ字ト同義ナレ氏、其本義ハ實ニ  
 律法ヲ指スニ非スシテ、唯物ノ直形ヲ指シ、猶英語ノ  
 「ロシダ」非理或ハ邪曲ノ義及「上」之ニ相當セル羅甸語ノ本義ハ

唯物ノ彎屈糾纏ヲ指セルカ如ク是ヲ以テ正理ノ字  
 ハ元律法ヲ指スニ非スシテ、反テ律法ノ字ハ正理ヲ  
 指ス者ナリトノ論ヲ生スルヲ得ヘシ、然ルニ律法ニ  
 因テ要求セラレサルモ、道德謙公ノ理ニ於テ缺ク可  
 ラサル者猶多キニ關セス、レヒト及ヒドロア。佛ノ  
 字ハ特ニ人定ノ律法ニ限用セララル者ハ、亦唯其本  
 義ヲ轉倒セルニ過キスシテ、曾テ其道德思想ノ本性  
 タルヲ害スルコトナク、即チ世ニ公義ノ衙署、公義ノ統  
 治ト謂フ者ハ、律法ノ衙署、律法ノ統治ト謂フニ同シ  
 久、又佛國ノ所謂「ラシヤスチー」義ナリ、ハ審廷ノ  
 定稱ト爲リタレ、之カ爲メ公義ノ見解ヲ造成セル

原質ハ律法ト同共ナルハシトノ疑アルニ非サルカ  
 リ、抑公義ナル者ハ、往古人民ノ律法ト爲ス所ノ者ハ、  
 總テ敬冷ヲ要スル一切ノ諸事ヲ包攝シ、此律法ハ直  
 ニ上帝ヨリ發出セリト信スルノ時ニ在ルモ、能ク之  
 ヲ期望スルヲ以テ、希伯利人ニ於テハ、基督教道初  
 興ノ頃ニ至ルマテ、夙ニ完全ナル思想ヲ爲セリ、然ル  
 ニ其他ノ國人、殊ニ希臘羅馬ノ國人ハ、其律法ト爲ス  
 所ノ者ハ、元人ノ作所ニ係リ、猶後來相繼テ人ニ因  
 テ作ラルヘキヲ知レルヲ以テ、此人ノ亦弊惡ナル  
 律法ヲ作ルヘキヲ及、各々若シ律法ノ允准ナクシ  
 テ爲センナレバ、不義ト稱セララルヘキ事功意思ナリ

ト雖モ却テ律法ニ因リ而之ヲ爲スコアルヲ許スニ  
 至レリ、是故ニ不義ノ意ハ、律法ヲ犯毀スルコトニ附着  
 セスシテ、唯應ニ現存ス。ト若クハ應ニ現存スヘク  
 シテ、現存セサルハ、律法ニ是レ天然ノ律法ヲ謂フ者即チ  
 莫ク犯毀スルコト及ビ應ニ以テ律法ト爲スヘキ所ノ  
 者ニ及セザルト認メラレタル律法ニ附着シ、而シテ律  
 法及ビ其誠規ナル者ノ思想ハ、縱令實有テ律法ヲ用  
 テ、公義ノ定法ト爲スヲ止ムルノ時ニ在ルモ、猶能ク  
 公義ヲ見解ヲ管制スルヲ得ルヲ、亦實ニ之ニ因ルナ  
 リ、此公義ハ、小春ハ、卦古入月ハ、新制ト爲スルハ、  
 凡ソ人公義及ビ其職分ノ思想ヲ以テ、亦律法ヲ節制

ヲ受ケス、且之ヲ願ハサル所ノ許多ノ事物ニモ適用  
 スヘキ者ナリト爲スハ、是レ其常ニシテ、未タ曾テ律  
 法ヲ以テ一身生活ノ萬狀ニ干與スルヲ願フ者アラ  
 スト雖モ、其日常一切ノ舉措ニ於テ、義或ハ不義ノ事  
 アルヘキハ、則チ固ヨリ自ラ之ヲ認識セリ、然ルニ此  
 ノ如キ干與ニ就テ論スルモ、之ヲ以テ應ニ律法ト爲  
 スヘキ者ヲ破壊セリト爲スノ思想ハ、猶少シク遲疑  
 ナキ能ハス、何ヲ以テ之ヲ謂フヤ、今吾儕ノ以テ不義  
 ナリト認メタル行爲ノ責罰セラレ、トハ、必シモ毎  
 時法衙ニ因リテ之ヲ行フヲ以テ便宜ト爲サ、ルモ、  
 亦應ニ吾儕ニ快樂ヲ與ヘ、吾儕允當ノ感覺ニ合スヘ

久特ニ偶然不便ノ事アルカタノ、此慰望ヲ棄ツル  
アルノミ、蓋至微至小ノ状態ニ至ルマテ、総テ公義ノ  
舉措ハ強勒セラレ、不義ノ舉措ハ壓服セラル、ノ事  
タル、吾儕若シ官府ニ委任スルニ、斯ノ如ク各個人民  
ニ越ヘタル無限ノ權力ヲ以テスルヲ憚ラサレハ、固  
ヨリ皆之ヲ見ルヲ悦フヘク、且人民ハ一事ヲ爲スモ  
必公義ニ於テスヘキ者ナリトスルトキハ、則チ人民  
ハ亦應ニ之ヲ爲スヲ迫マラルヘキ者ナリト謂フ、  
言辭ノ常ニシテ、權力ヲ有スル或人ニ因リ、此職分ノ  
強勒セラル、ヲ見ルハ、亦其快トスル所ナリ、然ルニ  
吾儕若シ不幸ニシテ律法ニ因テ之ヲ強勒スルハ不

便ナルヘキヲ見ルノ時ニ至リテハ、則チ常ニ此事ノ  
行レ難キヲ痛嘆シ、不義者ニ與ヘラレタル脱罰ヲ以  
テ禍害ト爲シ、犯者ニ加フルニ、自己ト公衆トノ譏刺  
ヲ以テシ、カメテ律法ノ及ハサル所ヲ補ハントセリ、  
是故ニ律法約束ノ思想ナル者ハ、社會進歩ノ形狀ニ  
隨ヒ、公義ノ名目ノ下ニ在テ、猶幾回ノ更革ヲ經、僅ニ  
完全ニ至ルヘシト雖モ、亦公義ヨリ生シタル一思想  
タルヲ失ハストス、吾儕ハ此ノ事業ヲ非難ス  
上文ノ二節ハ、蓋公義思想ノ起原、及ヒ其發長ノ真說  
ナリ、然レモ吾儕ハ亦須ラク其說ノ未タ一般道徳ノ  
職分ヨリ、此公義ノ職分ヲ區別スヘキ所以ノ者ニ言

及セサルヲ察スヘシ、何トナレハ、元來律法ノ精神ヲ  
 稱スル治罪主制ノ思想ナル者ハ、帝ニ不義ノ意會ニ  
 入ルノミナラス、併セテ或類ノ非理ノ意會ニ入ルハ  
 キヲ以テナリ、抑今吾儕ノ或ル事業ヲ指シテ非理ト  
 稱スルヤ、其人ノ之ヲ爲スハ、彼ニ於テスルカ、此ニ於  
 テスルカ、必應ニ責罰ヲ受クヘク、而シテ其之ヲ受ク  
 ルハ、律法ニ因ラサレハ、則チ邦國庶民ノ言論ニ因リ、  
 邦國庶民ノ言論ニ因ラサレハ、則チ其人自己良心ノ  
 羞惡ニ因ルヘシトノ意ヲ含ム者ニシテ、此言ハ實ニ  
 道德ト單純便宜トヲ區別スヘキ所以、真正ノ分岐  
 點ト謂フヘシ、  
モ、律法ノ責罰ヲ受ケサ故ニ凡ソ人宜ク之ヲ履行ス  
 ル者ヲ單純便宜ト爲ス故ニ凡ソ人宜ク之ヲ履行ス  
 ルヲ強勒セララルヘキ所ノ者ハ、其形狀ノ如何ヲ論セ  
 ス、皆義務ノ名目ノ一端ニシテ、義務ナル者ハ、猶逋債  
 ヲ催徴スルカコトク、宜ク人ヨリ催徴スヘキノ物ト  
 爲シ、苟モ此人ヨリ催徴スヘキ者ト思考スルニ非サ  
 ルコリハ、決シテ此人ノ義務ト爲スヲ得ス、是ヲ以テ、  
 謹慎ノ道、若クハ他人ノ利益等ノ事ハ、或ハ此義務ヲ  
 催徴スル者ニ對シテ之ヲ抗拒スヘキノ理アレバ、其  
 人ノ身分ニ在テハ、固ヨリ怨苦ヲ訴フルノ權ヲ有セ  
 サルヲ亦明カナリ、然ルニ此ニ之ニ反セル他ノ事情  
 アリ、即チ吾儕人ノ之ヲ爲サンコトヲ欲シ、之ヲ爲セハ、

モ、律法ノ責罰ヲ受ケサ故ニ凡ソ人宜ク之ヲ履行ス  
 ル者ヲ單純便宜ト爲ス故ニ凡ソ人宜ク之ヲ履行ス  
 ルヲ強勒セララルヘキ所ノ者ハ、其形狀ノ如何ヲ論セ  
 ス、皆義務ノ名目ノ一端ニシテ、義務ナル者ハ、猶逋債  
 ヲ催徴スルカコトク、宜ク人ヨリ催徴スヘキノ物ト  
 爲シ、苟モ此人ヨリ催徴スヘキ者ト思考スルニ非サ  
 ルコリハ、決シテ此人ノ義務ト爲スヲ得ス、是ヲ以テ、  
 謹慎ノ道、若クハ他人ノ利益等ノ事ハ、或ハ此義務ヲ  
 催徴スル者ニ對シテ之ヲ抗拒スヘキノ理アレバ、其  
 人ノ身分ニ在テハ、固ヨリ怨苦ヲ訴フルノ權ヲ有セ  
 サルヲ亦明カナリ、然ルニ此ニ之ニ反セル他ノ事情  
 アリ、即チ吾儕人ノ之ヲ爲サンコトヲ欲シ、之ヲ爲セハ、

則チ其人ヲ愛好讚稱シ之ヲ爲サレハ則チ其人ヲ  
嫌惡賤蔑スト雖モ亦其人ノ必之ヲ爲スヘキノ義務  
ナキヲ許セル者は是ニシテ此レ所謂道德職分ノ境遇  
ニ非サル者ナレハ吾儕ハ固ヨリ其人ヲ譴斥シ之ヲ  
以テ當然責罰ヲ加フヘキ所ノ者ナリト爲ストナキ  
ナリ凡ソ此等宜ク責罰ヲ受クヘキト之ヲ受クヘカ  
ラサルトノ思想ニ因リテ如何ナル觀察ヲ下スルキ  
ヤ是レ其事ノ後係ヲ見テ自ラ知ルヲ得ヘク然レモ  
余ハ此ノ如キ區別ハ正理非理ノ名義ノ根柢ニ存ス  
ルノ疑アラスト思量シ即チ吾儕或人ノ舉措ヲ見テ  
宜ク責罰ヲ受クヘキ者ナリトスレハ則チ之ヲ非理

ト稱シ宜ク責罰ヲ受クヘカラサル者ナリトスレハ  
則唯他ノ嫌惡賤蔑ノ稱ヲ下スノ理ナク及ヒ吾儕或  
人ノ宜ク云々ノ規矩ニ從フテ行フヲ強勒セラル  
ヘキヲ願フトキハ則チ其事ノ正理ナルヲ謂ヒ宜ク  
之ヲ獎勵勸諭セラルヘキヲ願フ止マルトキハ則  
チ唯其事ノ愛好讚稱スヘキヲ謂フノ理ナシトスル  
ナリ末段ノ意謂フ正理非理共ニ其名義ノ根柢ニ至  
テ受クヘキ者モ均シク之ヲ受クヘキ者モ唯之ニ由ルヲ願ハ  
シク之レ正理ナリトモ亦均ニ大段ノ義ニ由ルハ  
然ルニ前節ハ便宜合用ノ一分ヨリ公義ヲ別ツニ非  
スシテ唯之ヨリ一般道德ヲ別ツ所以ノ本性ノ差異

ナレハ、茲ニ猶道德ノ諸類ヨリ公義ヲ別ツ所以ノ本  
性ヲ查究セサルヘカラス、蓋今日倫常學者ノ説ヲ觀  
ルニ、道德ノ義務ヲ分テ二大部ト爲シ、拙劣ナル稱呼  
ヲ用ヒテ、之ヲ完全義務及ヒ不完全義務ト名ツク、而  
シテ不完全義務トハ、其事固ヨリ遵守スヘキモ、特ニ  
之ヲ行フノ機會ハ、吾カ撰擇ニ任スヘクシテ、例之救  
濟慈惠ノ情境ノ如ク、吾實ニ之ヲ施スヘキノ分アレ  
ル、之ヲ施スハ、必シモ其人ヲ定メ其時ヲ限ラサルヘ  
キ所ノ者ヲ指スト爲シ、又理學論者ノ精詳ナル語法  
ニ隨ヘハ、完全義務トハ、之ニ對セル權利ノ因テ以テ  
或人ニ存スル所ノ義務ヲ謂ヒ、不完全義務トハ、曾テ

或ル權利ヲモ存セサル所ノ義務ヲ謂フト爲セリ、顧  
フニ此區別ハ、即チ公義ト他ノ道德職分ト人間ニ存  
セル所ノ區別ニ精當スヘク、吾儕カ前ニ記シタル、公  
義ノ各種ナル辭意ヲ推測スルニ、其語モ亦毎ニ人民  
權利ノ思想ヲ包含シ、即チ一人或ハ數人ヲ有スヘキ  
要望ニシテ、恰モ律法ノ或人ニ財産若クハ其他ノ諸  
權利ヲ許セルトキニ當リテ與フルカ如キ者ヲ指ス  
ニ似タリ、故ニ不義ノ事タルヤ、其由テ起ル所ノ者、或  
ハ人ノ所有物ヲ剥奪シ、或ハ人ニ對スルノ信約ヲ破  
リ、或ハ人ヲ遇スルコト、其宜ク得ヘキ所ノ者ヨリハ之  
ヲ惡シクシ、若クハ要望ヲ有スル其人ニ超ヘサル所



ノ他人ヨリハ之ヲ惡シクスル等ノ諸類アリト雖モ、  
 此各件中孰レモ既ニ爲シタル非理ト、非理ノ爲ニ害  
 ヲ被リタル主名人アルヘキトノ二事ヲ帯ヒ、又不  
 義ハ一人ヲ遇スル<sup>トシテ</sup>、他ノ諸人ヨリハ之ヲ善クスル  
 ニ由テ起ル者アレ<sup>ト</sup>、此ノ如キ時ニハ、非理ヲ被ル者  
 ハ、其人ノ争賽者ニ在リテ、是レ亦主名人ト謂フヘシ、  
 凡ソ此般ノ形狀、即チ道德職分ニ於テ相互ノ關係ア  
 ル或人ノ權利ナル者ハ、則チ公義ト寛仁慈惠トヲ別  
 ツヘキ所以ノ差異ニシテ、公義トハ帝ニ之ヲ爲スヲ  
 以テ正理トシ、爲サ、ルヲ以テ非理トスルノミナラ  
 ス、亦或人ヨリ其道德上ノ權利ナリトシテ、吾儕ニ要

望スルヲ得ヘキ所ノ者ヲ稱スレ<sup>ト</sup>、夫ノ寛仁慈惠ノ  
 事ニ至リテハ、吾儕宜ク之ヲ何人ニ施スヘシトノ義  
 務ヲ負ハサルヲ以テ、吾儕ニ對シテ、此道德上ノ權利  
 ヲ有スル者ハ、未ダ曾テ之アラサルナリ、抑此解説ニ  
 關シテハ、之ニ抵觸セルカ如キノ事例ハ、却テ更ニ之  
 ヲ確定スル者タル<sup>ト</sup>、亦猶他ノ真正ナル諸解説ニ於  
 ルニ異ナラス、即チ今若シ道德說者アリテ、自ラ說ヲ  
 作り、凡ソ人類タル者ハ、其何人ナルヲ定メサルモ、其  
 總體ニ於テハ、固ヨリ吾儕ノ爲スヲ得ヘキ一切ノ善  
 行ヲ受クルノ權利ヲ有セリト謂フトキハ、右ノ論旨  
 ニ因リ、必寛仁慈惠ノ事ヲ以テ、公義ノ種類中ニ包括

スルヲ見ルヘク、而シテ其稱スル所ヲ料ルニ、吾儕非常ノ効勞ハ、固ヨリ邦國庶民ニ對シテ盡スヘキ所ノ者ナリト謂ヒ、之ヲ視ル<sub>レ</sub>恰モ負債ノ如クシ、又社會ヨリ吾儕ノ爲ニ行ヒタル者ニ對シテハ、之ヲ捨テ、別ニ充全ノ報償ト爲スヘキ者ナシト謂ヒ、之ヲ以テ謝恩ノ類ト同視シ、此兩者ノ亦公義ノ情境タルヲ示スニ過キササル<sub>レ</sub>ニ、然ルニ元來權利ノ存スル所ハ、公義ノ情境ニシテ、曾テ慈惠ノ情境ト爲スヘカラサルヲ以テ、何人タリトモ、公義ト一般道德トヲ區別スル<sub>レ</sub>、前ニ吾カ説ク所ノ如クセサル者ハ、是レ畢竟其區別ヲ爲サスシテ、徒ニ一切ノ道德ヲ以テ公義中ニ混

入スル者ト稱スヘキナリ、吾儕ハ既ニ公義思想ノ締造ニ入ルヘキ諸原質ヲ定斷スル<sub>レ</sub>務メタルコト此ノ如シ、故ニ今之ニ次テ、此思想ニ追隨スル所ノ感覺ハ、上天ノ特旨ニ因リテ、之ニ附着セラレタル者ナルカ、此思想ノ外ニ存セル或ル法則ニ因リテ發育セラレタル者ナルカ、抑又公衆便宜ノ考慮ニ起因シタル者ナルカヲ討索スル<sub>レ</sub>ヲ始メ、  
 △ヘシ、主入<sub>レ</sub>ハ、  
 余以爲ラク、此公義ノ意<sub>ニ</sub>見<sub>ル</sub>ハ、感覺ノ強キ者之固ヨリ正ク便宜ノ思想ト稱スヘキ者ヨリ生スルニ非ス、然レ其本體ハ、  
 繼令之ヨリ生セサルモ、特ニ其道德ニ

渉ル者ハ、則チ之ヨリ生スヘシト、  
 盖公義ノ意見ニハ、二個ノ原質アリ、即チ其一ハ害ヲ  
 爲シタル人ヲ責罰スルノ願欲ニシテ、其一ハ害ヲ被  
 リタル主名人アルヲ確知明信スルヲナリ、  
 今余ノ見ル所ヲ以テスレハ、此或人ニ害ヲ爲シタル  
 者ヲ責罰スルノ願欲ハ、亦自衛ノ氣象ト、憐恕ノ感覺  
 トノ二物ヨリ發生シ、而シテ二物ハ極メテ天然ニ近  
 ク、或ハ稟性ニ出テ、或ハ之ニ類セル者ト爲スヘシ、  
 凡ソ何人ヲ論セス、己レ若クハ己レノ憐恕ヲ及ホス  
 ヘキ諸人ニ對シテ、施爲嘗試セル所ノ傷害ヲ疾惡シ、  
 及ヒ之ヲ捍禦報復スルハ、是レ天然ノ勢ナリトス、此

意見ノ起原ハ、今必シモ之ヲ論スルヲ要セス、盖各種  
 ノ動物ハ、總テ害ヲ爲シ、若クハ己レ及ヒ兒子ヲ害ス  
 ヘキ者ヲ見テハ、己レ亦之ヲ害セント欲スルニ因リ、  
 之ヲ以テ稟性ナリトスルモ、或ハ智力ノ結果ナリト  
 スルモ、等シク一切動物ノ通有性質タルヲ失ハス、然  
 ルニ人類ニ至リテハ、則チ此事ニ關シ、自ラ二個ノ特  
 件ヲ以テ、他ノ動物ニ別チ、即チ第一ハ其憐恕ヲ及ホ  
 スヤ、特ニ其兒子ニ達スルノミナラス、又稍靈敏ナル  
 動物ノ如ク、更ニ其己ヲ親愛セル長上動物ニ達スル  
 ノミナラス、且一切ノ人類、及ヒ一切ノ生類ニ達スヘ  
 キヲ、第二ハ其自重ト憐恕トヲ別タス、共ニ意見ノ全

體ニ潤大ナル品等ヲ與フヘキ開達ノ才智ヲ具スル  
一、是ナリ、故ニ人類ナル者ハ、綴令憐恕ノ卓越ナル品  
等ヲ措キ、單ニ其卓越ナル才智ノミニ因ルモ、固ヨリ  
利益ナル者ハ、己レト己レ其一分ヲ爲セル社會トノ  
間ニ共通スヘク、一般社會ノ安寧ヲ脅制スルノ舉措  
ハ、亦其一身ヲモ脅制スヘキヲ覺リ、以テ自衛ノ稟  
性（假ニ之ヲ稟性ト名ツク）ヲ喚起スヘシ、況ヤ此ノ如  
キ卓越ノ才智ヲ以テ、夫ノ廣ク人類ヲ憐恕スルノ勢  
カト相合スル者ニ至リテハ、自ラ人ヲシテ種族邦國  
及ヒ一切衆生等共總ノ思想ニ固着セシメ、苟モ此公  
利ニ害アル行爲ハ、其憐恕ノ稟性ヲ提醒シ、其抵抗ヲ

激成スヘキ一、顧フニ論ヲ俟タサルナリ、  
公義ノ意見ノ原質ヲ論シ、其責罰ノ願欲ヨリ生スル  
者ヲ謂ヘハ、是レ報復雪怨ノ天然感覺ニ出デ、特ニ才  
智ト憐恕トノカニ因リ、以テ夫ノ一般社會ヲ傷リ、併  
セテ吾儕ニ及フ所ノ暴害ニ當ルヘキ者ニ過キサル  
一、既ニ上ニ謂フ所ノ如シ、故ニ此意見タルヤ、其中元  
道德ノ一分ヲモ有セス、道德ト稱スヘキ者ハ、唯之ヲ  
シテ濟衆憐恕ノ心ニ隸屬ヒシメ、以テ其命令ニ遵服  
聽從セシムルニ在ルノミ、蓋天然ノ感覺ハ、吾儕ヲシ  
テ若シ或人ノ己ニ對シテ不快ナル事ヲ爲セシトキ  
ニ當リ、漫然之ヲ疾惡スルヲ知ラシムル者ナレバ、其

一タヒ濟衆ノ感覺ニ因リ、化シテ道德質ト爲ルニ及  
 ンテハ、則チ專ラ公衆ノ福祉ニ適セル方向ニ行動ス  
 ヘシ、是ヲ以テ世ノ所謂義士ナル者ハ、凡ソ事縱令己  
 ニ害アラサルモ、苟モ社會ニ害アレハ、則チ之ヲ疾惡  
 シ、又縱令己ニ害アリテ苦楚ヲ覺ユルモ、其之ヲ壓伏  
 シテ、社會ト己ト共ニ利益ヲ享クヘキ者ニ非サレハ、  
 則チ之ヲ疾惡セサルヘキナリ、  
 世人或ハ稱スラク、凡ソ人公義ノ意見ノ侵害セラ  
 ル、ヲ覺ユルトキハ、常ニ一般社會即チ共ニ利益ヲ  
 謀ルヲナク、唯自己ノ事ヲ謀レリト、然レモ是レ未タ  
 曾テ此教道ノ駁説ト爲スニ足ラス、蓋特ニ己レ痛苦

ヲ受ケタルノ故ヲ以テ疾惡ヲ懷クハ、稱譽スヘキニ  
 非サルモ、亦人ノ常情ト稱スヘシト雖モ、若シ夫レ其  
 疾惡スル所、實ニ道德ノ感覺ヨリ出テ、他ノ行事ヲ疾  
 惡セントスルニ當リ、先ツ其果シテ非斥スヘキ者ナ  
 ルカラ思量スルノ人ニ至リテハ、縱令自ラ社會ノ利  
 益ヲ爲ニ身ヲ委ヌルコトヲ公言セサルモ、亦應ニ他ノ  
 ノ利益ヲ視ルコト、猶自己ノ利益ノコトクスルノ規法  
 ヲ實行セルヲ知ルヘク、苟モ之ヲシテ此事ヲ知ラサ  
 ラシノ、他ノ行事ニ注心スルコト、特ニ自己一身ノ上ニ  
 關カル者ニ止マラシムルトキハ、是レ其人ハ本心ノ  
 義ナルニ非スシテ、自ラ其行爲ノ公義ニ掛慮セサル

者ト謂フヘキナリ、顧フニ右ノ旨趣ハ、非利用説者ト  
 雖モ、亦之ヲ許允スル所ニシテ、夫ノ康<sup>カン</sup>的<sup>テ</sup>氏<sup>ノ</sup>、道德ノ  
 原理トシテ稱述セル<sup>ル</sup>、既ニ首章ニ舉タルカ如ク、凡ソ  
 舉措ハ、規法ハ、一切ハ、性靈物ヨリ取テ、以テ律法トセ  
 ラル、<sup>ハ</sup>、<sup>ニ</sup>、<sup>足</sup>ル者ヲ用ユ、<sup>ハ</sup>、<sup>シ</sup>トノ語ノ如キ、固ヨリ人  
 類共、總公同ノ利益ナル者ハ、必良心ニ基キ行爲ノ道  
 徳ヲ守レル主事者ノ胸中ニ存セサル可ラサルコトヲ  
 認定セシ者ト謂フヘシ、然ラサレハ、縱令如何ナル巧  
 辨ト雖モ、私曲ノ規法ハ、必一切ノ性靈物ニヨリテ、取  
 用セラルルコト無カルヘク、之ヲ取用スルニハ、事物ノ  
 天然ニ於テ、非常ノ扞格アルヘシト稱スルコト能ハサ

ルヲ以テ、同氏ハ徒ニ旨意ナキ語ヲ用ヒタルヲ免レ  
 ス、<sup>第</sup>一章<sup>ヲ</sup>參<sup>ス</sup>、故ニ康<sup>カン</sup>的<sup>テ</sup>氏<sup>ノ</sup>、道理ニ旨意ヲ附セント  
 欲セハ、須ラク其語ヲ以テ、吾儕ハ應ニ一切ノ性靈物  
 カ其共、總利益ニ關シテ、取用セル規法ニ因リテ、舉  
 措ヲ律ス、<sup>ハ</sup>、<sup>シ</sup>ト謂フヲ義ト爲サ、ルハカラサルナ  
 リ、<sup>ハ</sup>、<sup>シ</sup>ト謂フヲ義ト爲サ、ルハカラサルナ  
 此ニ前述ノ諸條ヲ再説スレハ、其要旨大略左ノ如シ、  
 曰ク、公義ハ、思想ハ、舉措ノ規法ト、此規法ヲ注制スル  
 所以ノ意見ハ、<sup>ハ</sup>、<sup>シ</sup>ト謂フヲ義ト爲サ、ルハカラサルナ  
 通シ、其福祉ヲ圖ル所以ノ者ニシテ、乙意見ハ、規法ヲ  
 干犯スル所ノ人ハ、宜ク責罰ヲ被ルヘキノ願欲ナリ

トシ又二物ノ中、犯法ニ因テ害ヲ被リ、其權利(假ニ適宜ノ名稱ヲ用ユ)ノ力爲ニ毀損セラレタル或ル主名人アルヲ會得スルキノ意ヲ含有セリ、而シテ公義ノ意見、則チ元己ハ若クハ己ハ憐怒ヲ及ホスハキ者、對シタル傷害ヲ捍禦報復スル動物、願欲ニ出テ、特ニ人類ハ濶大ナル憐怒ト亦智ナル自重トニ因リ、終ニ之ヲ擴充シテ、普ク一切ノ人民ヲ包括スルニ至リシ者ニ過キス、故ニ所謂感覺ナル者ハ亦後諸原人類、憐怒、其道德性ヲ發シ、前ノ諸原願欲ノ其自衛ヲ特異勢力ヲ發シ、前ノ諸原願欲ノ余ハ被害人ニ存シテ、傷害ヲ爲シ毀損セラレタル權

利ノ事ヲ論シ、以テ公義ノ思想意見ヲ締造セル別種ノ原質ト爲サスシテ、亦唯二原質ノ變形ナリト爲セリ、此二原質トハ、則チ前ニ謂フ所ノ如ク、一ニハ或ル主名人ニ加ヘタル害、一ニハ責罰ノ願欲ニシテ、吾儕自己ノ心志ヲ查察スレハ、此二物ハ實ニ權利ノ犯毀ヲ謂フニ當リテ指ス所ノ諸件ヲ包含セル者ナルヲ知ルヘシ、蓋今事物ヲ稱シテ、或人ノ權利ナリト謂フカ如キ、是レ此人ハ社會ノ己カ爲ニ律法或ハ教令言論ノ力ヲ以テ、此物ノ所有ヲ保護スヘキ正確ナル要望ヲ有セルヲ指ス者ト爲シ、若シ此人果シテ何如ナル緣故ニ於ルモ、社會ニ因テ之ニ許シタル一物ヲ

得ヘキ充全ノ要望ヲ有セリトモハ固ヨリ此物ノ權  
利ヲ有セリト稱スヘク若シ又事物ノ權利ノ宜ク此  
人ニ屬セサルヘキ所以ヲ證セント欲セハ社會ノ必  
シモ此人ノ爲ニ之ヲ保護スルヲ用ヒス唯應ニ之ヲ  
自然ニ任シ或ハ其人自己ノ盡力ニ委スヘキヲ見テ  
自ラ之ヲ知ルヘキナリ此ノ如クナレハ凡ソ人其本  
業ノ争賽ニ於テ贏得スル所ノ者ハ宜ク其權利ヲ有  
スヘキコト是レ社會ハ何人ヲ論セス此人ノ如ク  
シテ許多ノ贏得ヲ勉ムルヲ妨ク可カラスト爲スニ  
因レリト雖モ亦此人縱令偶一年三百磅ヲ贏得スル  
コトアリトモ必シモ常ニ此權利ヲ有スルニ非ス是レ

社會ハ此人ヲシテ常ニ此額ヲ贏得セシムヘキノ責  
ナキニ因リ之ヲ反シテ此人若シ三分利息一萬磅ノ  
資本ヲ持スルニ至リテハ則チ常ニ一年三百磅ノ權  
利ヲ有スヘク是レ社會ハ此人ヲシテ常ニ此額ノ歲  
入ヲ贏得セシムヘキノ義務ヲ受クルニ因リテナリ  
是故ニ凡ソ權利ヲ有スト云フ者ハ社會ノ應ニ己ヲ  
護シテ之ヲ得セシムヘキ事物ヲ有スルノ謂ナリ駁  
論者若シ社會ノ應ニ之ヲ護スヘキハ何ノ故ナルヤ  
ト詰問セハ余ハ唯公眾利用ニ因ルノ外復他ノ道理  
ナシト答ヘンノミ然ルニ若シ猶此言ヲ以テ未タ此  
職分ノ充全ナル感覺ヲ盡スニ足ラス感覺ノ勢力ヲ



説クニ足ラストスル者アラハ、是レ意見ノ締造ヲ論  
 シ、童ニ性靈上ノミナラス、併セテ動物上ノ原質ト稱  
 スヘキ、報復<sup>レ</sup>ノ熱望ニ及ホスノ咎ニシテ、其實ハ此熱  
 望ト雖モ、亦唯關涉利用ノ更ニ絶大緊要ナル種類ヨ  
 リ、其道德則ト強烈性トヲ生出スル者ニ過キサレナ  
 ク、蓋此種類ニ干連スルノ利益ハ、則チ一切ハ利益中  
 最モ命脉トスヘキ各人ハ、感覺ニ保全ヲ加フル者ヲ  
 謂ヒ、其他世俗ノ諸益ハ、或ハ甲人之ヲ要スレバ、乙人  
 之ヲ要セス、或ハ己ハ得サレバ、欣ンテ之ヲ棄テ、他  
 物ヲ以テ之ニ換フルコトアレバ、特ニ此保全ノ事ニ至  
 リテハ、凡ソ人類タル者、一モ之ヲ外ニスルコト能ハス、

加之若シ吾儕ヲシテ其力一時已レヨリ強キ者ノ爲  
 ニ、將來諸物ヲ奪ハルルキノ虞アラシメ、現在ノ快  
 足ノ外復已レニ價直アル者ナキヲ以テ、総テ今後一  
 切ノ禍害ヲ免レ、各種福祉ノ全價ヲ受クヘキ者ハ、亦  
 唯此保全ニ在ルニ、顧フニ此事タルヤ、形氣ノ榮養  
 ノ後ニ在テ、自ラ最大急務ト爲シ、苟モ之ヲ有セシト  
 欲スル、必之ヲ具スル所以ノ機關ヲシテ常ニ活動息  
 ヲサラシムルニ非サレハ能ハス、是ヲ以テ吾儕ノ邦  
 國庶民ニ對シテ、此生存ノ真基ヲ保全スルタメ、相結  
 合セシメ、期スルノ要望ハ、其周圍ニ於テ、尋常利用  
 ノ情狀ニ關スル感覺ニ比スレバ、更ニ強烈ヲ加ヘタ

ル感覺ヲ收拾シ其始唯級位ノ差異ニ過キサルモ猶  
人心論ニ於テモ屢此事アルカコト久終ニハ全ク種  
類ノ差異ト爲レリ此ノ如クナレハ右ノ要望ハ其他  
正理非理ノ感覺ト尋常便不便ノ感覺トノ間ヲ區別  
セル一切ノ思量ト與ニ等シク獨全ニシテ無限不測  
ナルノ質性ヲ取り之ニ關涉スルノ感覺ハ其勢強盛  
ニシテ且他人ノ宜ク自任スヘキ感覺ヲ算スル必此  
ニ於テスヘク衆人皆同一ノ關係アルヘキヲ以テナ  
リ前ニハ唯應ニ此ノ如クスヘシト謂ヒシ者今ハ變  
シテ必此ノ如クセサル可ラスト謂フ者ト爲リ公認  
ノ急務ハ變シテ道德ノ要件ト爲リ終ニ形氣ノ感覺

ニ比如シ其約制ノ力亦之ニ下ラサルニ至ルハキナ  
鳴呼前段ノ剖斷若クハ之ニ類スルノ諸論ヲシテ果  
シテ公義ノ名目ノ真説ニ非サラシメ又公義ナル者  
ヲシテ全ク利用ノ助ニ藉ラスシテ特ニ心志内面ノ  
觀察ニ因テ認定スルヲ得ヘキ獨立ノ定法ナラシメ  
ハ人心ノ秘蘊ハ何ヲ以テ此ノ如ク含糊暗昧ナルヤ  
許多ノ事件ハ何ヲ以テ其所見ノ異ナルニ隨テ或ハ  
義トシ或ハ不義トセラルルヤ殆ト之ヲ解スルニ困  
ムナルヘシ  
吾儕常ニ諸人ノ言  
即チ直悟者ヲ聞クニ利用ナル者

ハ、各異ノ人ニ隨テ、各異ノ解ヲ爲スヘキ、未確ノ定法  
ナレハ、他ノ不易不滅ニシテ且誤謬ナキ公義ノ命誠  
ノ、自ラ確證ヲ舉ケ、以テ諸説ノ異同ヲ免ルヘキ者ノ  
外ハ、復一ノ安全ノ道アルナシト稱シ、亦或人ハ此  
説ニ從ヒ、公義ノ諸論ニ於テハ、決シテ争辨ノ事ナク、  
若シ之ヲ取テ規法ト爲ストキハ、何如ナル情境ニ用  
ユルトモ、恰モ數學ノ證明ノ如ク、極テ疑惑少カルヘ  
シト假想セリ、然ルニ是レ甚タ事情ニ濶ナルノ論ト  
謂フヘク、凡ソ世間何物ヲ以テ公義トナスヤノ問ハ、  
猶何物ヲ以テ社會ニ有用ナリトナスヤノ問ニ於ル  
カコトク、諸説ノ差違甚タ多ク、其議論モ亦甚タ烈シ

キ者ニシテ、帝ニ各異ノ國或各異ノ人ニ隨テ、各異  
ノ見解ヲ爲スノミナラス、乃チ一人ノ心中ニ在ルモ  
猶公義ハ單獨ノ規法道理訓典ニ非スルヲ、寧ロ多種  
ノ規法道理訓典ナリトシ、其諸命誠ハ每ニ相統一セ  
スシテ、其人ノ之ヲ取捨スル公固ヨリ他ノ定法ニ因  
ルカ、或ハ一己ノ預見ニ因リテ、指導セラルルハ、外  
ラサルナリ、  
此ニ其例ヲ舉ケン、今或人ハ諸人ヲ懲戒スルカ爲ニ、  
一人ヲ責罰スルハ、不義ニシテ、責罰ヲ公義タルヲ得  
ル所以ハ、特ニ其之ヲ受クル者ヲ爲ニ、福祉ヲ圖ルニ  
出ツルトキノミナリト謂ヒ、或人ハ全ク之ニ反スル

ノ説ヲ持シ、若シ此事ヲ以テ、單ニ其人ノ爲ニ福祉ヲ  
圖ルニ出ツル者トセハ、他人ハ固ヨリ其人ヲ自ラ之  
ヲ圖ルヲ管制スルノ權利ヲ有セサルヲ以テ、其人ノ  
利益ノ爲ナリト稱シテ、既ニ具識ノ齡ヲ達シタル者  
ヲ責罰スルハ、專横不義ナレド、唯其他人ニ加ハタル  
害ヲ防クカ爲ニ之ヲ責罰スルハ、是レ自衛ノ適法權  
利ヲ實施セル者ニシテ、即チ公義ナリト謂ヒ、又ミス  
トル、オーウエン氏英國近代ノ慈善者ニシテ、カシハ、  
凡ソ犯人ハ自ラ其品性ヲ造ルニ非ス、彼ヲシテ犯人  
ト爲ラシムル所以ノ者ハ、畢竟其教育ト彼ヲ圍繞セ  
ル狀勢トノ咎ニシテ、此等ノ事ニ於テハ、彼固ヨリ其

責ヲ受クハ、キハ理ナシ、故ニ責罰ノ事ハ一切不義ナ  
リト謂ハ、以上ノ諸説ハ、皆極テ是ナルニ近ク、且此  
疑題ヲ議スルニ當リ、單ニ公義ニ據ルノミニシテ、苟  
モ公義ヲ表面存シ、其勢力ノ源ヲ爲ル所以ノ道理ニ  
推及セサルニキハ、余ハ未タ如何シテ論者ヲ辨破ス  
ハキカヲ知ラズ、蓋シ說者ハ、孰モ明白真確ナル公  
義規法ニ原ツキ、即チ第一說ハ、他人ノ利益ノ爲ニ  
其個人ヲ淘汰シ、其承允ヲ得スシテ、之ヲ犧牲ニスル  
ハ不義ナリト謂フ、ニ據信シ、第二說ハ、自衛ハ公義  
ナリト謂フ、及ヒ其人ノ福祉ト爲ルヘシト稱シ、敢  
テ一人ヲ強ヒ、之ヲシテ他人ノ見解ニ合同セシムル

ハ不義ナリト謂フコニ靠倚シ、オウエン氏ノ説ハ、其人ノ自ラ之ヲ如何トモスル能ハサル者ニ就テ之ヲ責罰スルハ、不義ナリトハ公理ヲ恃メル者ト爲ス、故ニ説者等ハ、己ノ撰取シタル公義ノ一訓典ノ外、復其諸訓典アルヲ省セサルノ間ハ、各自捷ヲ得ルカ如クナレバ、苟モ此各種訓典ノ當面相現スルヲ見ハ、己亦直ニ他説者ノ言フ所ノ者ヲ稱道スヘク、何人ヲ論セス、総テ同等ノ勢カアル他説ニ超駕スルコトナクシテ、能ク己ノ公義説ヲ伸フル者ハ、未タ曾テ之アラサルナリ、顧フニ右ハ實ニ難事ニシテ、説者モ亦其然ルヲ覺リ、是ニ於テ諸説ニ克捷センヨリハ、寧ロ之ヲ

回避スヘキ許多ノ術策ヲ創作シ、或人ハ、第三説ヲ避クルタメ、好尚ノ自由ト名ツクル者ヲ假設シ、凡ソ其好尚實ニ醜惡ノ形狀ニアルノ人ヲ責罰スルハ、固ヨリ此人ヲ以テ外物ノ感染ニ因ラスシテ自ラ此形狀ニ至リシ者ト爲スニ非サレハ、未タ公義ト謂フ可ラスト稱シ、又自餘ノ二説ヲ逃ル、順便ノ計謀ハ、往古ノ世、社會ノ衆民、曾テ律法ニ遵フコトヲ應諾シ、若シ之ニ遵ハサレハ、宜ク責罰ヲ受クヘキコトヲ承允スルノ約束ヲ爲シ、之ニ因リテ、立法者ニ與フルニ、自己或ハ社會ノ福祉ノ爲ニ、衆民ヲ責罰スルノ權利ヲ以テセシコトアリ、然ラサレハ、彼固ヨリ此權利ヲ有スルコト無

カルヘシト稱スルノ虚想即チ是ニシテ、此ノ如キ思慮ハ、既ニ全體ノ疑難ヲ免レ、亦公義ノ一訓典ニ凡ソ人ノ因テ、以テ害ヲ受クヘキ所ハ者ト雖モ、苟モ其承允ヲ得テ行ヒタルトキハ、不義ニ非スト謂ヘルニ因リ、更ニ此責罰ヲ加フルノ事ヲ以テ適法ト爲スニ至ルヘシ、然ルニ余ノ所見ヲ以テスレハ、縱令所謂約束ナル者ヲシテ、果シテ虚想ニ非サラシムルモ、猶此訓典ハ、他ノ訓典ノ之ヲ却廢スヘキ者ニ比スレハ、勢力ノ及ハサルト固ヨリ論ヲ待タスシテ、唯公義ノ道理ヲ帶ヒタル一種ノ弛慢放縱ナル方法ニ過キストス、故ニ是レ畢竟法廷ノ粗鹵ナル副急策ニ用ユヘキ者

ニシテ、若シ精密ノ剖析ヲ施サントセハ、其害屢却テ大ナルヘキノ虞アルヲ以テ、已ムヲ得ヌ、甚々不穩ナル專斷ニ安ンヌルノ時ニ限リ、猶法廷ト雖モ、苟モ詐偽ノ故、或ハ過誤錯失ノ事アレハ、必シモ甘受ノ約束ヲ守ラサルヘキヲ許セルヲ以テ、其常ニ此訓典ニ固着スルコト能ハサルヤ、亦知ルルキナリ、既ニ此訓典ニ責罰ヲ加フル事ノ適法ナルハ、既ニ認可セラレタルモ、猶各種ノ罪犯ニ允當スヘキ責罰ノ比擬ヲ議スルニ至リ、公義ノ各說ノ相抵觸スル者、幾許ノ多キヲ見ルヘキヤ、蓋此主旨ニ於ルノ規法ハ、未タ曾テ目ヲ以テ目ニ償ヒ、齒ヲ以テ齒ニ償フト謂ヘル報復法ノ切

二公義本然自生ノ意見ニ合スル如ク者アラズ此  
 猶太及ヒ穆罕默特ノ法理ハ、縱令歐洲ニ於テハ一般  
 二實施ノ訓典ト爲スヲ廢セラレシモ、余ハ衆人ノ心  
 陰ニ之ニ眷戀スル者アルヲ疑ヒ、猶偶報罰ノ犯人ニ  
 歸スル、其所犯ト分毫ヲ差ヘカ、則ト精當リテ、諸人  
 皆快足ノ感覺アルヲ見レハ、亦以テ種類ノ報復ヲ悅  
 ムル意見ノ實ニ天然ニ出ツルヲ證スニキ、信具、故  
 衆庶ノ人ニ於テ、公義ノ試法ヲ用ヒ、治罪止シテ加刑ヲ  
 律スル者ハ、常ニ責罰ハ宜ク罪犯ニ比準スニシト謂  
 ヒ、其意唯犯者道德上ノ罪辜ニ隨テ、精密ニ之ヲ裁量  
 スヘキヲ主トシ、(此道德上ノ罪辜ヲ裁量スヘキ定法

ハ、何物ヲ用ユルトモ、人ヲシテ罪犯ヲ爲サシムル  
 其ハ如何ナル責罰ノ限度ヲ要スヘキヤノ思慮ハ、  
 曾テ其心算中公義ノ問ニ關スルナシ、然ル軍又自  
 餘ノ人ニ於テハ、徹頭徹尾此限度ノ思慮ヲ存シ、此人  
 囚、罪犯ノ何様ナルヲ論ホス、總テ苦難ハ刑ヲ以テ邦  
 國庶民ニ加フルハ、唯本人ノ之ヲ再行ス、若クハ他人  
 ノ之ニ倣フヲ防クニ足ル者ヲ用ユヘク、毫モ其外ニ  
 越ユルコトアルハ公義ニ非ズ、實言セリ、  
 既ニ論シタル主旨ノ外、更ニ他ノ例ヲ擧ケンニ、今  
 協力勤業ノ社會ニ於テ、才藝鍊熟ハ、優等報償ヲ得ヘ  
 キノ分アルコト、果シテ義ナルカ、或ハ不義ナルカ、蓋此

優等報償ヲ得ハキノ議ヲ非トスル者ノ説ニ因レハ、凡ソ其力能ク最好ノ事ヲ爲スハキ人ト雖モ其分タル固ヨリ他人ト相等シク、自己ノ怠廢アレハ、公義ニ於テ、未タ必シモ劣等ノ人ト怠廢ヲ慶スルカ如クセサルアラズ、且優等ノ才幹ハ、其能ク人ノ感嘆ヲ來シ、勢力ヲ收メ、及ヒ之ニ附隨セル快樂ノ諸原ヲ具フルニ因リ、別ニ世界福祉ノ優等ナル股分ヲ以テ之ニ加ハサルモ、既ニ自ラ過多ノ利益ヲ有セル者ナレハ、社會ハ此ノ如キ利益ノ不平等ヲ增益スルヨリハ、寧ロ才質薄弱ナル者ノ爲ニ之ヲ賠補スハキノ義ヲ稱シ、又前議ヲ是トスル者ノ説ニ因リ、社會ハ幹能

ル勞工者ヨリ許多ノ益ヲ受テ、其服役ノ有用ナルヲ以テ、之ニ與フルノ報償モ隨テ大ナラサルヲ得ス、亦共同成菓ノ大股分ハ、實ニ此人ノ力ニ出ツルニ由リ、此股分ヲ得ルノ要望ヲ許サ、ルハ、是レ竊盜ノ類ニシテ、若シ此人宜シク唯他人ノ受クル所ノ者ヲ受クハシトセハ、義ニ於テ亦宜シク他人同等ノ物ヲ生産シ、其優等ナル幹能ニ準シテ少許ノ時間少許ノ勞力ヲ費スヲ以テ足ルハシト稱セリ、以上ノ二説ハ、孰レモ相抵觸セル公義ノ理ニ據ル者ナレハ、誰カ能ク其可否ヲ決スルヲ得ン故ニ所謂公義ナル者ハ、此時ニ於テ其意兩端ニ分レ、到底之ヲ調停スヘカラス、而シ



テ論者ハ各反對ノ一端ヲ持シ即チ甲ハ一個人ノ宜ク受クヘキノ公義ヲ主トシ乙ハ社會ノ宜ク與フヘキノ公義ヲ主トシ兩者ノ見ル所與ニ詰難ヲ容レス公義ノ基礎ニ由テ其一ヲ撰取スルヲ亦全ク隨意タルヘキナリ顧フニ此事ニ於テ能ク去就ハ決テ爲ス者ハ持ニ社會ハ利用アルハミ、  
 又徵稅賦課ノ議ニ關セル公義ノ諸定法ハ何ソ其レ多クシテ且協和セサルノ甚シキヤ此諸說ヲ見ルニ或ハ邦國ニ出スノ費用ハ須ラク財產ノ數ニ比準スヘシト謂ヒ或ハ公義ハ貯蓄ノ多キニ隨テ每百ノ賦課ヲ徵スルヲ殊ニ多キ所ノ遞加稅遞加トシテ比例ヲ

ニ數額ヲ増フ是トスト謂ヒ又天然公義ノ點ヨリ論スレハ財產ノ多少ニ關セス總テ各人ヨリ同一ノ額ヲ徵スヘシト謂フ苟モ之ヲ得ヘキトキハ最モ堅牢ノ地歩ヲ占メ猶豫食結會シノ簽名主タル者同一ノ權ヲ得ルニハ必同一ノ額ヲ出シ復其平等ニ其益ヲ得ルト否トヲ問ハサルカトシ而シテ今律法及ヒ政府ノ保護姑ク保護ヲ稱ヲ用ユヲ以テ廣ク衆人ニ與ヘラレ衆人モ亦等シク之ヲ要スル所者ナリト爲ストキハ衆人ヲシテ同一ノ價ヲ以テ之ヲ買ハシムルモ固ヨリ不義ニ非ス夫ノ商人ノ貨物ヲ顧客ニ賣ルニ其財產ノ多少ニ隨テ價ヲ變セズ總テ同一ノ

品ニハ、同一ノ價ヲ命スルヲ、亦公義ト謂フヘキナリ、抑此道タルヤ、之ヲ徵稅ニ適用スルトキハ、甚ク仁愛ノ人情ト社會便宜ノ心識トニ抵觸スルヲ以テ敢テ之ヲ保持スルヲ得スト雖モ、其據ル所ノ公義ノ理ニ至リテハ、則チ真確有力ナルヲ、曾テ之ニ反スル所ノ公義ノ諸理ニ下ラス、是ヲ以テ此說ハ他ノ徵稅ノ方法ヲ墨守セル者ニ對シ、往々隱然ノ影響ヲ及ホスアリ、蓋人民中或ハ邦國ナル者ハ、宜ク多ク富者ヨリ徵收スヘキノ義アリトシテ、其富者ノ爲ニスルヲ、毎ニ貧者ノ爲ニスルヨリモ多キヲ論スル者アレトモ、畢竟富者ハ律法政府ノ設ナキモ、自ラ保護スルヲ、遙ニ

貧者ニ勝ル取ニナラス、猶却テ貧者ヲ以テ己ノ奴隸ト爲スヲ利アルヘキニ因リ、其言未タ以テ實ヲ得タリト爲ス可ラス、又或人ハ同世ノ說ヲ持シ、衆人ハ宜ク其身體ヲ保護シ爲ニ此ハ衆人ニ於テ平等ノ價値アルヲ以テ平等ナル分頭稅ヲ出シ、其各個平等ナラサル財產ヲ保護シ爲ニ此ハ亦平等ナラサル稅ヲ出スヘキヲ主張スル者アレトモ、或人ハ之ヲ駁シテ、甲人ノ諸物身體財產ヲ其人身ニ價値アルハ、毫モ乙人ノ諸物其人身ニ於テ異ナルヲナシト謂フ、此等ハ紛雜ニ會シテハ、利用說ヲ除カハ、外復ハ一ハ解脫法アルヲ見サルナリ、

○既ニ論スル所ノ如クナレハ、公義ト便宜トノ差異  
 徒ニ空想ノ區別ニ過キサレカ、將タ凡ソ公義ヲ以  
 テ方畧ヨリハ尊貴ナル物ト爲シ、方畧ハ特ニ公義ヲ  
 盡ク後ニ於テ聽從スル者ニ過キスト思慮スル  
 人ハ、總ニ昏惑ノ域ニ陷ケタルカ、曰ク、吾儕ノ前  
 ニ意見<sup>セシメ</sup>性質起原ヲ論セシ解説、則チ其便宜トノ  
 真成ノ區別ヲ認メタル者ニシテ、夫ノ行爲ハ後係<sup>即</sup>  
 利用ノ道ヲ視ル、僅ニ道德ノ一分ノ如クシ、之ニ對  
 シテ不遜ナル慢言ヲ加フル所ノ人ト雖モ、曾テ此區  
 別<sup>ヲ</sup>シテ、余ヲ謂フ所ノ者ヨリ重カラシムルヲ能ハ  
 ス、又余ハ利用ニ根據セシテ、公義ノ空想定法ヲ設

ケタル理論<sup>ヲ</sup>虚假ナルコトヲ駁スルモ、苟モ利用ニ根  
 據スルノ公義ニ至ル者ハ、則チ以テ一切道德ノ首位  
 ニシテ、且最モ尊貴有力ナル者ト爲セリ、蓋公義トハ  
 道德諸規ノ衆類ヲ稱スルノ名ニシテ、他ノ世事ヲ指  
 導スル規法<sup>ニ</sup>比スレハ、各間安寧ヲ大本ニ關スル、  
 履ニ其上ニ出テ、是ヲ以テ更ニ之ニ勝リタル獨全<sup>ニ</sup>  
 職分ト爲ルヲ得タ、而シテ吾儕ノ前ニ公義思想ノ  
 本質<sup>ヲ</sup>示シテ、查明セシ所<sup>ニ</sup>、個人ニ存セル權利  
 ノ見解<sup>ハ</sup>、即チ此有力ナル職分ヲ證示セル者ト謂フ  
 人ノ互ニ相傷害スル(吾儕ハ非理ノ干與ヲ相互ノ自

由ニ加フル者ヲモ、亦此中ニ算入スルヲ忘レサルヘ  
 シヲ禁スルノ道德規法ハ、徒ニ人事ノ局面ヲ經紀ス  
 ヘキ善法ヲ示スル訓典ニ比スレバ、固ヨリ遙ニ人生  
 ノ安寧ニ利アリト爲シ、又此規法ハ人類濟衆感覺ノ  
 全體ヲ定ムヘキ大基本タルノ殊性ヲ有シ、人類ノ間  
 ニ平和ヲ維持スル者ハ、特ニ此法ヲ注意ニ在リテ、若  
 シ苟モ之ニ遵フヲ以テ常トシ、之ニ遵ハサルヲ以テ  
 變トスルニ非サレバ、各人ハ應ニ他人中ニ於テ、己レ  
 之ニ對シテ恒ニ自ラ警備セサルハカラサルノ讎敵  
 ヲ見ルヘキナリ、猶此事ノ緊要ナルヲ、殆ト之ニ減セ  
 サル所以者ヲ舉タルニ、是レ實ニ人類ノ互ニ相催

迫シ、以テ最強最切ナル獎勵ヲ爲スヘキ教誨ナリト  
 シ、若シ各人相互ノ間ニ與フル所ノ者ヲシテ、特ニ謹  
 慎ナル訓示勸諭ニ止ラシメバ、彼等ハ決シテ一ノ得  
 ル所ナキヲ、例之彼等ノ利益ヲ有スルハ疑ナキモ、其  
 度ノ甚ク淺小ナルヘキ慈惠ヲ義務ヲ以テ之ニ教ユ  
 ルトキハ、人必蒙ル他人ノ慈惠ヲ望ムヲ得ズテ、  
 唯他人ノ己ニ害ヲ爲サハルヘキヲ望ムヲ得ルカ如  
 以是故ニ各人ノ爲ニ、其他人ヨリ受クヘキ傷害ハ、或  
 ハ直接ニ因リ、或ハ自己ノ福祉ヲ遂クルノ自由ヲ妨  
 ケラルルニ因ル者ヲ防止スルノ道德法ハ、其人ノ心  
 中ニ於テモ、言語行事ヲ以テ主唱強持スルノ際ニ於

テモ、共ニ絶大ノ利益ヲ有スルニ至リ、而シテ其相接  
 ス、キ諸人ニ疾苦ヲ與フルト否トハ、皆此法ノ注察  
 如何ニ在ルヲ以テ、其人類同胞ノ一タルニ適スル所  
 以人者モ亦之ニ因テ判定セラルヘシ、今公義ノ職分  
 ヲ締造スル所ノ者ハ、元此ノ如キノ道德法ニ出テ、而  
 シテ不義ノ最モ著明ニシテ、嫌惡ノ感覺ヲ喚起ス、  
 キ者ハ、則チ或人ニ加フルニ、勢力ハ非理ナル凌虐安  
 用ヲ以テスルノ行爲ニシテ、其次ハ、非理ヲ以テ其人  
 ノ應ニ得ヘキ所ノ者ヲ抑留スルノ行爲ナリトシ、此  
 兩者一ハ直接ノ苦難ヲ以テシ、一ハ其人ノ理勢上若  
 クハ交際上ニ於テ當然ノ緣故ヲ有セル福祉ヲ剥奪

スルヲ以テシ、共ニ之ニ實害ヲ被ラヌヲ免カレサル  
 ナリ、蓋シ此ノ注察ヲ命スル所ノ強力ナル意思ハ、更  
 此道德原法ノ注察ヲ命スル所ノ強力ナル意思ハ、更  
 ニ之ヲ犯毀セシ諸人ヲ責罰スヘキヲ教ヘ、而シテ  
 自衛他衛及ヒ報復ノ氣象ハ、共ニ此ノ如キ人ニ對シ  
 テ勃發スルニ因リ、凡ソ害ニ報ユルニ害ヲ以テスル  
 ノ事ハ、公義ノ意見ト相密着シテ、一般ニ其思想中ニ  
 包括セラレタル者トス、又善ニ報ユルニ善ヲ以テス  
 ルノ事ハ、同シク公義諸誠ノ一ニ居ル者ニシテ、其社  
 會上ノ利用アルハ疑ナク、且人類自然ノ感覺ヲ帶將  
 シ、但シ其傷害ニ連係スルヲ、夫ノ義不義ノ極初ニ存

シテ意見烈性ノ本源ト爲ル所ノ者  
即チ害ニ報ニル  
謂フ事ヲ一見明瞭ナルカ如キヲ得サルノ三然ルニ  
此連係ノ明瞭ナルハ固ヨリ前者ニ減スト雖モ其  
真確ナルトニ至リテハ曾テ毫モ之ニ減スルニ非ス  
其故ハ今人ノ恩惠ヲ受テ其報償ヲ要セザルニ及  
テ之ヲ肯ンセサル者アラハ是レ其人ノ冀望ノ最モ  
公明正大ニシテ而カモ元隱然我ヨリ其恩惠ヲ邀ヘ  
シニ係リ然ラサレハ殆ク之ヲ受クルコトナカルヘキ  
者ニ就テ一ニ之ヲ滅絶シ以テ實害ヲ加フルニ因リ  
テナリ蓋冀望ヲ滅絶スルコト人間諸惡ニ冠タル所  
以ノ者ハ其交誼ノ破壊ト契約ノ破壊トノ如キ甚々

不徳ナル行爲ヲ罪ト生ズルヲ視テ之ヲ知ルヘク凡  
ソ人類ノ受クル所ノ傷害ハ其慣習ト十分ノ期必ト  
フ以テ信任セシ事物ハ一朝要求ノ時ニ至リテ遽ニ  
失敗セシヨリ大ナル者甚々少ク或ハ全ク之ナキニ  
至リ又一切ノ非理ハ此幸福ヲ抑留ヨリ大ナル者甚  
々少ク被害ノ若クハ憐恕アル傍觀者ニシテ怨疾ヲ  
懷カシムルコト亦之ヨリ甚シキ者ナキ至ル是即チ以  
テ其人ノ應ニ得ヘキ所ノ者ヲ以テ各久長與ヘ即チ  
善ニ報コルニハ善ヲ以テスルコト猶善ニ報ユルニハ  
害ヲ以テスルカトクスヘキノ理ハ帝ニ吾儕ノ解  
說ノ如ク公義思想ノ中ニ包括セララルノミナラス

却テ意見烈性ノ主眼ナリト稱スヘク、人間ノ估較ニ於テ、公義ヲ以テ單純便宜ノ上ニ列スルモ、畢竟之實外ナラサルナリ、  
守内ニ行ハレタル公義ノ訓典ニシテ、其處辨ニ於テ往々憑據セララル、者ハ多クハ單ニ吾儕ノ今説明セシ公義ノ理ヲ舉行スルノ器具タルニ過キストシ、即チ夫ノ人ハ唯其隨意去就スルヲ得ヘキ者ニ於テ責ヲ受クハ、シト謂フ、未ダ教令ヲ聞知セサルハ、罪スルハ不義ナキト謂フ、及ヒ責罰ハ宜ク罪犯ニ比準スヘシト謂フ、等ハ皆害ニ報ユルニ害ヲ以テスル公義ノ道理、或ハ誤用セラレ、妄ニ害ヲ人ニ加

ラルニ至ルヲ防ムカ爲ニ設ケラル、ノ訓典ナリ、蓋此等普通訓典ハ大半ハ元法廷ノ習行ヨリ終ニ之ヲ用ユルニ至リ、自ラ完全ナル經驗精熟ニ導カレタル者在ニテ、法廷ヲ宜ク責罰スヘキ者ニ責罰ヲ加フル、各人ハ爲ニ其權利ヲ判決スルトノニ職掌ヲ履行スヘキ緊要ナル諸規法中、之ヲ捨テ、他ニ索ムヘキ者ナキニ殆シ、  
審司諸徳第一タル不偏道ヲ實ニ公義ノ職分ニ爲ルヲ得ヘキ者ハ、其一面ハ上文ニ理由ノ如ク、他ノ公義ノ諸職分ヲ履行スヘキ緊要ノ形狀タルニ因レリ、然ルニ所謂平等不偏ノ訓典ナル者ハ、衆人并ニ有

識者ノ爲ニ公義ノ教誡中暗列セラレ、人間職分ノ最上ニ位スル所以ニ至リテハ、其原特ニ此ヲ如キニ止マラス、他ノ一面ノ見解ニ從ハ、亦唯既ニ説明セシ所ノ諸道理ヨリ生スルヲ推論ナリト稱スヘシ、蓋今各人ノ功過ニ隨ヒ、害ヲ制スルニ害ヲ以テシ、善ニ報スルニ善ヲ以テスルノ事、果シテ義務ナルトキハ、吾儕ハ吾儕ニ對シテ平等ニ爲スコアルノ衆庶ヲ遇スル、亦宜ク平等ナルヘク、更ニ高等ナル義務ノ之ヲ禁止スル者ナキトキハ、社會ハ社會ニ對シテ平等ニ爲スコアルノ衆庶ヲ遇スル、亦宜ク平等ナルヘキト、固ヨリ論ヲ待タズ、是レ實ニ共同徧布ノ公義ノ卓越ナ

ル無形定法ニシテ、一切ノ教令及ヒ有徳者ノ盡力ハ、アラストラストスシクダレド 總テ非常ノ度ヲ以テ之ニ傾向スヘシ、然ルニ此平等ノ大義務ハ、猶直ニ道德ノ原理ヨリ發出スルニ係リ、曾テ末梢後發ノ教説ヨリ生スル言辭上ノ推論ニ非サルヲ以テ、前者ニ比スレハ更ニ深宏ナル基礎ノ上ニ定在スルコトアリ、其故ハ是レ所謂利用即チ最大幸福ノ理ノ真旨中ニ包含セラレ、者タルニ因リ、而シテ元來此利用ノ理ト稱スル語モ、甲人ノ幸福ト乙人ノ幸福トノ級位相等シキ者ヲ視ル、其間毫モ輕重アルヘカラスト爲スニ非サレハ、其種類ニ至リテハ、或ハ輕重ヲ許スコトアレ、ト畢竟文字ノ空言ニシテ、靈明



意義ナキ者ト謂フヘク、苟モ能ク此等ノ形情ヲ審  
 ニスレハ、ベンサム氏ノ各人ハ宜シク一人ヲ以テ之  
 フ算スヘク、何人タリモ、一人以上ヲ以テ之ヲ算スヘ  
 カラストノ格言ハ、應ニ解明ノ注脚トシテ、此語ノ下  
 記入セラルベキナリ、抑道德者并ニ立法者ノ推度  
 ニ於テ、各人ハ幸福ニ對シ平等ナル要望ヲ有セリト  
 謂フ者ハ、固ヨリ人生已ムヲ得サルノ形狀ト、各人ノ  
 利益ヲ包括セル公衆ノ利益トノタメ、此訓典ニ制限  
 ヲ置クノ外ハ、亦其一切幸福ノ方術ニ對シ平等ナル  
 要望ヲ有スヘキノ義ヲ帶ヒ、而シテ所謂制限ナル者  
 ハ、則チ嚴ニ之ヲ講究セサルヘカラス、故ニ此訓典ハ

決シテ普ク適用スヘキ者ト爲ヌヲ得サルコト、恰モ他  
 ノ公義諸訓典ニ異ナラスシテ、却テ吾儕ノ既ニ記明  
 セシ如ク、亦各人ノ社會便宜ノ思想ニ屈從スルヲ免  
 レス、然レモ若シ其宜ク之ヲ適用スヘキノ時ニ至リ  
 テハ、縱令何如ナル情境ニ在ルモ、齊ク公義ノ命誡ト  
 稱スヘキナリ、夫レ諸人ノ宜ク待遇ノ平等ヲ得ヘキ  
 コトハ、苟モ社會便宜ノ爲ニ之ニ反スル者ヲ要スルニ  
 非サルヨリハ、未タ曾テ其權利ヲ有セサル者アラス、  
 是ヲ以テ、社會上一切ノ不平等ノ、曾テ便宜ト考ヘラ  
 レ、今ニ至リテ否サル者ハ、當ニ不便ト稱スヘキノミ  
 ナラス、亦應ニ不義ト稱スヘク、其暴虐ノ狀、人民ヲシ

テ自ラ往日ハ何ヲ以テ能ク之ニ堪エシヤト驚訝セ  
 シムルニ至リ、而シテ人民ハ其他猶同一ナル誤見ヲ  
 執リ、不平等ヲ認メテ便宜ト爲シ、以テ之ニ堪エ、若シ  
 之ヲ更革セハ、或ハ其今日ニ於テ是トスル所ノ者ノ  
 厭惡スヘキヲ、亦前日ニ於テ之ヲ非トスルヲ覺リシ  
 所ノ者ニ異ナラサルヘキヲ知ラサル者アリ、所謂社  
 會進歩ノ全史トハ、此ノ如キ世變ノ歷次ニシテ、一慣  
 習一教令ノ相繼テ廢改シ、前ニハ認メテ社會存立ノ  
 必需物ト爲ヒシ者モ、後ニハ一般ニ擯ケテ不義暴虐  
 ノ品等ニ列セラル、ノ類ヲ稱シ、夫ノ奴隸良民、貴族  
 賤氓、都人農夫ノ區別ニ於ルヤ、曾テ此例アルヲ見、乃

チ層色種族、及ヒ男女ヲ以テ區別ヲ爲スノ政ニ至リ  
 テモ、將來亦應ニ此例アルヘク、或ハ現今ト雖モ既ニ  
 此例アルヲ見タリ、世間之ニ於テハ、不義ノ行ハ、  
 此ニ由テ之ヲ觀レハ、蓋公義トハ道德諸要件ノ總稱  
 ニシテ、併セテ之ヲ論スルトキハ、社會利用ノ秤衡ニ  
 於テ、高等ノ位ニ居リ、是ヲ以テ又他物ヨリ於更ニ重  
 大ナル職分ト爲レル者トシ、而シテ其偶然ラサル者  
 アルモ、唯他ノ交際義務ノ緊要ナルヲ、此普通ノ公義  
 訓典ヲ彈壓スヘキ特殊ノ情況ニ止マリ、例之人命ヲ  
 救フカ爲ニ、必須ノ食物藥料ヲ竊盜搶奪シ、若クハ治  
 療擅長ノ醫生ヲ拐帶強迫スルハ、當ニ許允スヘキノ

事ト爲スノミナラス、却テ義務ト爲スヘキカ如キ是  
 ナリ、然ルニ吾儕ハ元來德行ニ非サル者竊盜搶奪拐  
帶強迫等  
 指テヲ稱シテ公義ト爲サザルヲ以テ、右ノ情況ニ於  
 ルモ、其常ニ言フ所者ハ、公義ハ他ノ道理ニ讓避セ  
 サル可ラスト謂フニアラスシテ、唯尋常ノ情況ニ於  
 テハ、義トス可キ者モ、他ノ道理ノ故ヲ以テ、特殊ノ情  
 況ニ於テハ、義トスルヲ得ヌト謂フニアリ、而シテ此  
 ノ如ク措辭ノ當ヲ得タルニ因リ以テ、公義ニ屬セル  
 不壞ノ性ヲ保全シ、世間或ハ稱譽スヘキノ不義アリ  
 ト稱セサルヘカラサルノ難ヲ免ルトハ、  
 余ハ以上提舉セラレタル諸説ハ、利用論ニ於テ、一ノ

真疑難トスル所ノ者、是レ公義ヲ謂フ、猶此章ヲ釋ス  
 ルニ足レルヲ知ル、抑公義ノ諸情況ノ、又以テ便宜ノ  
 諸情況ト爲ヌヲ得ヘキハ、大率分明ニシテ、二者ノ異  
 ナル所以ハ、畢竟公義ニ附着セル特性ノ意見ニ至リ  
 テハ、所謂便宜ト相反セリト謂フニ過キストス、然ル  
 ニ此意見ト雖モ、若シ之ヲ濶論シ、必シモ專ラ起原ノ  
 特性ヲ以テ之ニ歸スルヲナク、亦唯社會福祉ノ要求  
 ト併行スルヲ以テ終ニ變シテ道德性ト爲ルヘキ疾  
 怨ノ天然感覺ニシテ、公義思想ノ相合スヘキ諸情況  
 ノ衆類ニ於テ等シク存立スルヲ得ル者ナリトモハ、  
 此思想ハ復利用論旨ノ梗ヲ爲ヌヲ見サルナリ、苟モ

此、如クナレハ、公義ナル者ハ、却テ社會利用ヲ呼フ  
ノ適稱ト爲リ、他ノ利用ノ別ニ一類ヲ爲セル者ヨリ  
ハ、更ニ重要完全強盛ナルヲ致シ、其特殊ノ情況ニ於  
ルトキニ比スレハ、或ハ然ラサルヲアルモ、其當ニ級  
位ヲ異ニスルノミナラス、又種類ヲモ異ニシタルノ  
意見ニ因テ防護セラル、ナ、恰モ天然ニ出ツルカ如  
ク、而シテ此意見ノ勢力、果決ナルト、主制ノ嚴厲ナ  
ルトハ、則チ夫ノ人間、快樂便益ヲ開進スベキ單獨  
思想ニ附着セル感覺、優柔ナルニ比シ、大ニ逕庭ア  
ルヘキナリ、ナ  
利用論卷之下終

東京芝區三島町十番地  
山中市兵衛

明治十二年八月廿九日板權免許

同十三年三月出版

滋賀縣平民

東京芝區田村町廿番地寄留

翻譯兼出版人

澀谷 啟 藏

東京芝區三島町十番地

發兌書肆

山中市兵衛

賣捌所

東京之

東京之

東京

同十三年三月

即於十二年八月廿六日

北畠茂兵衛

北畠佐兵衛

丸屋善七

牧野吉兵衛

水野慶四郎

柳川梅次郎

江島喜兵衛

石川次兵衛

北澤新兵衛

西京

大坂

名古屋

函館

長寄

肥前佐賀

鹿兒島

日向宮崎

陸前仙臺

遠州掛川

田中次兵衛

前川善兵衛

柳原喜兵衛

川瀬代助

魁文社

以文會社

厚生分社

山中市兵衛支店

全支店

全支店

